



360
24



始



KI 3C-72

57-35-51

ドクトル三田谷啓著



外

外

一

東京 洛陽堂



はしがき

此書題して『外へ、外へ』と言ふ。果して何を意味するのであらうか。

諸君よ！日本帝國は今日其國民に『外へ、外へ』と叫ばねばならぬことになつて來た。日本が『外へ、外へ』と發展をしなければ、窮地に陥るより外に途がなくなるのです。

此書は、右の消息を論ずる目的で書かれたのではない。只書中に『外へ、外へ』と題する一篇があるので、其題を藉りて書名と致しただけのことである。しかし僕が「外へ、外へ主義」の主張者であることは申すまでもない。

諸君よ、僕は見識もなければ、又夢にも達眼など言ふものを有せぬ一介の書生である。斯かる男が三年や四年歐洲に居たとて、果してどれ丈けの獲物を望み得られやうか。諸君が此書に多くを望み給はば、恐らく失望に陥らん。蓋し歐洲を論究するには

別に達識の士あらん。僕は僅かに此書に於て僕の管見の一部を示すに過ぎぬのである。斯かるものを世に出して友を需むることの無謀なりと言ふ人あらば、その罪は我れ自ら甘んじて負はむ。さるかはり若しまた幸に同好の士を得たらんにはその光榮と幸福も自ら我有に歸せむ。はしがきは蓋しこの位にて事足りなむ。

大正三年秋の末、歐洲より歸朝
東京にて旅裝を解くの日

著者

例言

- 一、此書に收めたるものは、主として著者が在歐中にもせしものに係る。
- 一、本書中の題目は、一々執筆の順に従はず、従つて紀事の内容に時日と相前後するものあるべし。
- 一、本書に收めたるものの中には、既に新聞雜誌に掲げしもの一部分を含めり。その悉くを併せ收むることを得ざりしは遺憾なり。
- 一、斯の如くなれば、その文體も軌を一にするを得ず、區々に分れたり。
- 一、卷の名と執筆當時予が住み居たる國の名と符合せざるものあり。例へば英國にて書き乍ら獨逸の卷に收めたる如きこれなり。これ主として獨逸に關する記事なるが爲めなり。また獨逸の卷には、埃多利及び匈牙利にてもせしものをも收めたり。

- 一、本書を編むに當り、歐洲戰爭の實狀に照し、幾分か記事に訂正を加へたき箇所もありたれど、昔書きしものに現在の事情を斟酌して手加減を旋すよりも却て其儘の方が優しなるべしと思ひて、原記事には毫も筆を加へず。

外へ、外へ

目次

第一編 獨逸の卷

外へ、外へ……………	一
獨逸商人氣質……………	五
西洋を知り得ざる理由……………	一〇
國字問題……………	一七
獨逸國の出産と結婚……………	二一
接吻の匏園攻撃……………	二四
旅衣……………	六

ハムブルヒツ兒——水の都漢堡——キヨニヒスベルヒ——キヨニヒス
ベルヒミカント——伯林宮城を觀る

自由結婚の國にも離婚多し……………三六
男女の中……………四〇
新聞を讀む國民……………四三
日本人の眼に映する西洋……………四六
海の外へ、海の外へ……………四九
獨逸の世界征服主義……………五二
雪の維也納……………五五
浴場の都……………六〇
獨逸婦人の壽命……………六二
酒の國……………六五

獨逸商業組合の組織を見よ……………六九
海を越えて……………七二
獨逸に於ける婦人社會事業……………七六
 獨逸婦人會協會の事業——各婦人會の事業——婦人事業の範圍——婦
 人會事業の方法——婦人職業——婦人公共的職業
懷郷病……………九二
大人化と小兒化……………九五
國民教育に重きを置ける漢堡……………九八
生活法の進化……………一〇三
日本の教育……………一〇七
あの山越えて海越えて……………一一三
支那に於ける獨逸魂の發展……………一二五

ゼヒジッシュー、シユワイツを觀る……………一七八

ギョーテの故郷より……………一二三

獨逸國の出産數減少……………一二六

國民皆兵主義の獨逸……………一三四

慈善事業とハムブルヒ……………一三八

科學的精神……………一四七

六道の辻に立てる日本……………一五一

獨逸の野獸……………一五四

撰職の悩み……………一五五

和製頑固一天張……………一五八

肉食の國に精神料理の繁昌……………一六二

海外獨逸魂……………一六五

第二編 英國の卷

獨逸の關係……………一七二

獨逸に於ける「アルコホール」問題……………一七六

嗚呼歐洲戰……………一九一

獨逸軍艦評判記——「クルップ」——「カイゼル・ウイヘルヘルム、カナール」——孤立せる獨逸國……………

初めて英國へ……………二〇五

霧籠むる倫敦……………二〇九

英國に於ける獨逸人……………二二二

起て、而して進め、日本婦人よ……………二二七

流行と西洋婦人……………	二五三
歐羅巴に於ける珈琲の勢力……………	二三八
小兒を欲せざる國民……………	二三一
死 活 の 苦……………	二三五
日、英、獨の女人……………	二三八
日本人の愚的半面……………	二四三
倫敦に於ける飢餓軍……………	二五一
修養なき國民……………	二五五
歐米の社交と舞踏……………	二六〇
佛國に於ける人口増加法の窮策……………	二六二
英國に於ける新聞勢力……………	二六八
結 婚 苦……………	二六九

英國と獨逸の日曜……………	二七二
競馬を觀るの記……………	二七六
倫敦の家庭……………	二八二
歐洲の女と社會……………	二八五
外國に居て觀る日本人……………	二八八
盛なる端艇競漕……………	二九四
西洋婦人と酒……………	二九六
英國人の仕事表……………	三〇二
倫敦兒と「ハイード、パーク」……………	三〇三
男 女 合 戦……………	三〇六
英の人、獨の人……………	三一三
坐する國民、立てる國民、歩む國民……………	三一六

美人の書面……………三三〇

英國の美人……………三三四

英國雜觀……………三三九

英國人の口は煙筒に似たり——英國人の飲酒の盛なること——珈琲は英國に於て勢力少し——倫敦兒の娛樂——倫敦市街——街上の音楽——路上説教——露天行商——英人の祝盃——英語の應答——英國婦人は市場に出でず——犬の家——英國女の料理——英國の燈法——英國の小兒——英人は「カルタ」好きなり——在宅です——倫敦の書店——ドクトルの示し方

歐洲苦……………三五三

歐洲苦と戦争苦——歐洲戦争の開始——歐陽斷

第三編 途上の卷

日本人種改良論……………三八三

日本人は經濟の念に乏し……………三八九

歐洲觀……………三九五

局部の觀察——風俗習慣の原因——日本人は交際の術に巧ならず——社會は活書なり——泰西の女——日本に関する書籍——西洋は實物教育なり——泰西の小兒——結婚は勝利者の如し——男女の交際——結婚の條件——隣家の人を知らず——鍵を要する泰西の生活——作詩より、謳歌——程日本人は詩的趣味に富めり

顧み……………四一五

一、舟よび——二、舟の旅——三、三寸の舌——四、舌の應用——五、本道樂——六、取るものは取つて置け——七、外人の眼に映する日本人——八、交際——九、音樂舞蹈と芝居——十、日本人が學ぶべき歐洲

武装せる海上の五十日……………四五一

目次終

外へ外へ

ドクトル 三田谷 啓著

第一編 獨逸の卷

外へ外へ

日本人は、獨逸人が口癖のやうに言ふ所の『島國根生』(Das Inselgefüh)より『大陸根生に移行せねばならぬことになつて來た。換言すれば『日本根生』より『世界根生』に移らねばならぬ。讀者よ、世界根生を得るは日本根生を失ふのだと早合點しては行かぬ。

外へ、外へと僕は言ふ、諸君は問ふかも知れぬ。何故？ 何故？

諸君！日本人が静かに落附いて考へねばならぬ事は日本の將來である。一體日本人は『靜的國民』である。併し『動的國民』とならねばならぬことになつて來た。何時までも『坐る國民』ではいけなくなつた。見給へ、坐つて居ては傍にあるものでも手が届かねば立つて之を取らねばならぬ。ヤレ面倒だと言つて其まゝにする。然らざれば他の人手を用ひねばならぬ。腰掛けて居れば、一寸立つにも坐つて居る程には、大儀でない。既に勞力と時間に於て『跪坐式』が『腰掛式』に劣つて居る。この腰掛式よりも優るものがある。これは『イ立式』である。歐米の生活は今殆んど『イ立式』である。日本人が坐り込んで二時間も費して用立てるうちに、歐羅巴人などは立つたまま二分か三分でさつさと片づけてしまふ。

諸君、日本人は『跪坐式國民』より『イ立式國民』に高飛をせねばならぬ時代に居るものではありますまいか。『腰掛式』などと順番を守つて居ては人より後れ勝で居らね

ばならぬ。これが残念です。

日本人は『坐る國民』より一轉して『歩み行く國民』に變せねばなりません。日本人が『歩み行く國民』にならねば日本は亡びます。其理由は極めて明白です。

日本は農業國である。どんなに骨を折つても倍額の農産は得られますまい。其上に國民の數が増して來ます。糧食が無くなります。外國の金を吸収するより外に方法はありませぬ。日本國家それ自身が要求する費用も毎年多くなつて來ます。時には高飛してまでも多額の費用を國民に負擔させます。國民は國家の事ならば厭とは言はれませぬ。厭でなくても金が無ければ出すことが出來ませぬ。國民の間に金が無ければ、いくら國家でも『無いものを強ゆる』と言ふわけには行きませぬ。『無い袖の振れない』のは當然です。國家の前途は察すべきではありませんか。

日本人が世界的にならねばならぬのは此點です。外へ、外へと言ふのは此點です。然るに日本人は歩くことが不得手です。少くとも歐人ほどには上手でない。同じ歩調

で歩んで居ては足が短かいだけ歐人に後れます。坐つて居ては日本人の足はまづ長くなる望みは無いでせう。従つて百歩も二百歩も前方に進みつつあるものに追ひ付くことが困難です。驅足ならば或は追付けるかも知れませぬ。併し勞れます。一生驅足で通すことは何人にも出来ませぬ。日本人は歩いた後は坐つて休みたがる國民です。公園などでは真から休めない國民です。家の中で初めて休んだ心持を得る國民です。これが日本人の長所で、且短所です。日本人は進むよりは、守る方が得手の國民です。これが進まねばならぬとなつて來たから溜らない。見給へ日本人が少し計り出て行く。と亞米利加などでは排日運動をやるではありませんか。罪は何方どっちにあるか自分は知りませぬ。或は兩方にあるかも知れぬ。何れにしても日本人が「外へ、外へ」と言ふことが不得手の證據ともなりませう。或人は人種問題だと言ひます。ソリヤそんな事もあり得るでせう。併しそればかりとも見えませぬ。

そこに來ると獨逸人などは道が世界政策主義の國民だけあつて其やり方の巧妙なこ

とはスバラシイものです。獨逸人が世界の全表面で手腕を揮ひつつあることは別の條下で申しますが、中々エライものですネ。

日本國それ自身は今日其民を「外へ、外へ」と出さねばなりません。人のみならず。日本製の品物をもドツサリ「外へ、外へ」と出さねばなりません。外國からは文明と金だけをドシ／＼日本の「内へ、内へ」と持ち運ばねばなりません。諸君今は生存競争の世の中です。これをやらねば生存が危くなります。世界は一つの檜舞臺です。花役者が、主な役を勤めるのです。日本も檜舞臺で馬の足の役割ばかりを頂戴して居ては一向威氣が揮はぬ。花役者になる積りで大に腕を磨かうではありませんか。ウカ／＼して居る秋ではありません。

獨逸 商人 氣質

獨逸の商人は今全世界で活動をして居る。其手腕が大發展の原因たることは申すま

でも無い。

『獨逸商人氣質』これ實に研究すべき好題目ならずや。獨逸の商人が世界で發展し得る主なる原因の一つは恐らく商業教育の豫備智識が普及せらるるためであらう。彼等は簿記、速記等の外に外國語を學ぶ、能ふものは、直接當該國に赴いて外國語を學び、且商業上の智識を實地に習ふ。敏捷なる獨逸人は斯くて速に外國語を修得し且商業上の智識を増すのである。見給へ獨逸の商人にして二三の外國語を活用し得るもの極めて多けれども、英國の商人などに至りては其例甚だ乏し。これ獨逸人は世界政策を有し、英人は英語は世界的國語なりと固執せるにもよるべけれど、兩者の間に自ら大なる懸隔を見出すことが出来る。

獨逸人は物を組織することが上手である。商業組合(別の條下を見よ)などの完備せること驚くべし。一面に於ては此組織ある爲めに商業に従事せるものは、生活、就職等の上に便利を得、一面には商業的智識の修養に資することが出来る。

獨逸商人が世界的智識を求むることに汲々たるは我等の大に學ぶべき事だと思ふ。

彼等は毎週諸種の集會を催し、特に専門大家を招きて講話をなさしめ熱心に之を聞く。其世界的智識慾に富みたるを見るべし。世界的外交政事などに興味を有せることを見ては日本の商業家などの逆も足下にだに寄り付き得ざるの恨なきにあらずや。僕は英國等に在住せる獨逸人が日本の事なども最大の事柄は要點をチャンと會得せるに驚いた。これ等は實に商人が協力して組織せる團體の賜だと言ふことが出来る。

獨逸商人は又極めて敏捷なり。これは商人根生のみならず。獨逸國民の特有である。英國人などに比しては其敏捷さ蛇にも譬へ得べし。敏捷なるが故に機に乗することも上手である。

獨逸から倫敦に来て何か買物をして居る間にも著しく目に附くことは、英商人と獨商人との商業に關する相違點である。直接商業界に手を染めて居らすとも兩者の異なる處が察せらるる。

も東洋とは違つて居る。根本を捨てて、イヤ花が大きい、小さい、色がどうだ、香が無いとか、あるとか争つて見ても、一體樹木の種類が異つて居る以上同日の談に非ることは止むを得ぬところである。

日本人のうちにも『西洋通』と言はるる人が大分あるだらう。自ら『西洋通』と稱ふる人はそれよりもまだ一層多いことであらう。

成る程『通らしき通』は、大分あるかも知れぬ。蓋し『通の通』なるものに至つては曉空の星よりも遙に稀であらう。

『通の通』なり難き所以は、蓋し一にして止まぬ。

見給へ、日本人にして西洋に赴く人々の目的を！これには凡そ四種の別がある。専攻學科の研究は其一なり。一定の目標を有せる視察旅行は其二なり。商業若しくは工業に關係あるもの其三なり。娯樂を主として何でも歎でも手當り次第に見聞し、面白く暮し得ばそれにて事足るとするもの其四なり。其他に尙ほ曰く何、曰く何、擧ぐれば種類も多かるべし。

右のうち第一に屬すべきもの大多數を占め、以下の種類は少ない。専門學科は之を歐洲と云ふ全體のものに比して極めて小さい一部分に過ぎぬ。法律と言ひ、政事學と言ひ、美術と言ひ、哲學と言ひ、醫學と言ひ、軍事學と言ひ、曰く何、曰く何と言ふ。成る程當該の學科自己はその關聯する處廣く且深きには相違なければども、これを國家若しくは人種などの全體の上より見れば極めて小さき部分たるを免れぬ。

見給へ、日本より留學する人のうちには世界に知名の博士なども少くはない、が併し専門以外の話に至つてはサツパリ譯が解からぬと言ふ。某哲學博士にして醫治を乞ひしとき便の通せざる事を醫者に告げんとして其言葉に窮したりしと言ふ。三年や五年や下宿屋生活をして居て、大部分は講堂と下宿とで暮し、時々カツプエーへ行つたり、樂譜の一斑をさへ知らざるにコンツェルトへ行つたり。テキストの讀めぬ癖に其芝居を見た位で、ヤレ西洋の家庭がどうだ、ヤレ社會がどうだなどと言ふ人の心が可

笑しくてならぬ。

外國語の困難が西洋の事を知り得ない主なる理由の一つであることは争はれぬ。日本人は一體に外國語が下手だと言ふ。或人は言ふ、爾ふではない外國語だから六ヶしいのだと。僕はどちらが正當と見做すべきかを知らぬけれども、一體日本人は外國語をあやつるに都合の悪い性質を持つて居る。——此性質の善悪は今は別問題であるとしても——

凡そ事物を研究するには戦争に望む概がなければならぬ。語學は其武器である。精良なる武器を有せずして、効果多き戦を望むことは、無理な注文である。概して日本人は語學の研究法が中々下手である。日本での教育法からして下手である。語學の活用と言ふことが願みられぬやうである。西洋に來て毎日若くは一週に幾回語學教師の處に通つて見てもそれ丈けでは勿論足りない。

西洋の如く社交の發達した處では社交を一つの語學練習所とも利用し得ることが出

來る。家庭を研究の材料にも利用し得らるる。日本人はいくらひいき目に見ても、社交に上手の國民とは言へない。社交上失敗をするやうでは、一寸「通」になるに不便である。日本人は率ネ話柄に富まぬ國民である。——少くとも西洋人の所謂——普通の社交界では専門學科の話は禁物である。普通の話柄は演劇である。文學である。音楽である。こう云ふ話をして數時間相手を煙に巻き得るものは、日本の留學生の間には一寸見出すのが困難である。成る程醫學者に音樂の必要はなく、法律家に演劇の功は少からむ。併しそこが常識若くは興味の關する處で人間生活の上に少からぬ感作を與ふものとすれば、醫者だつて音樂を知り得ざるの理なく、法律家だつて演劇を解し得ざるの法則はないではないか。日本の外交家などのうちにも一向在勤の國情に暗き人少からずと聞く。西洋の事狀に通じ難き察すべきである。

日本の留學生にして、上より下に右より左に読み行く新聞を懐しげに手にする人あれど、現在我が住める市より發行さるる新聞をすら手にせざる人あり。読み得ざるが

爲めか、それとも月々五六十錢を節せんとの業か。前者ならば致し方なし、後者ならば一回のカツプエー行きを新聞費に廻してもよからずや、毎月十數圓を煙草に費すを普通とせる留學生には、五六十錢の新聞費が困難とは察せられず。其理由は何れに在りとしても、土地の新聞をも見ぬ程に、他國の事情を知る慾を有せざる人は、勿論社交等と言ふものを利用するの法を解せず、又風俗、人情の一斑をも知り得ざる、以て察すべきである。

學識に富み、觀察力に富み、判斷力に富んで居る人が、歐洲の精神を廣く且深く研究すると言ふことは如何ばかり興味深かきことであらう。

同じ歐洲と言つても英や獨や佛と言ふ様な大きな國がある。そしてそれが何れも異つた風俗、習慣、國民性を有して居る。それ丈けならばまだしものこと、語學が異つて居る。三國語丈けでも自由自在に流用し得ることは日本人などには非常の困難である。當該國の語學に通じ得ずして、其國の事情に通じ得んなどと言ふことは、蓋し手

に月を握らんとするにも似て、到底夢の外には遂げ得られぬことである。「通の通」たらんことの難き、以て察すべきではないか。

國字問題

●近頃日本で國字問題に関する議論もあるやうであるが、まだ實際上の方針も定まるに至らぬやうである。國字改良の利害などを論ずるのはズット昔のことで、今日は如何にしてこれを行ふかの實際問題を研究する時である。

●漢字を保存するなどと言ふことの不可なるは今日論のないところである。成る程漢字保存者の主張には幾分の理由があるかも知れぬ。併し時世は逆も漢字などを保存しては居られない。日本人が漢字を用ふる爲めに被る所の損害は實に夥しいものである。支那などでも同じ問題が段々論せらるると言ふことである。これは時勢の然らしむるところである。世界に國は多し、何れの國に國字問題などと騒いで居る所があるたら

うか。困つたものである。

●日本人が日本現在の國字の爲めに受くる所の損害はいろ／＼の方面に於て大したものである。今は一々これを數へぬにしても一寸二三の例だけあげて見よう。

●國家の上から言ふと人を造ると言ふことが大切である。如何にして効果多き教育を國民に施すかが一犬問題である。日本の現在の國民教育の方針は歐洲などに比して決して優つて居るとは言へない。餘程下手だと思ふ。その上に此頃は國民教育の年限を短縮せんと主張する人さへあるやうである。兒童が國字の爲めに失ふ處の腦力と時間を他の學科に應用し得れば其間に差引大なる利益を得ることは申すまでもない。日本の國民が歐洲の國民に比して普通教育の程度の低いのは國字などが大に影響して居ると思はれる。日本の國民が歐洲の國民に比して全然劣つて居るとは思ひたくない。然るに實際上劣つて居ると見做さるるのは全くこれを教育の下手に歸すべきものであるまいか。

●日本人が普通智識の乏しきを、國字のみの罪に歸することが出来ぬにしても、國字に大部分の罪のあることは確であらう。教育上國語の改良はどうしても斷行せられねばならぬと思ふ。

●或人は言ふ。成る程日本語は不完全である。併し日本が發展すれば、外國人は日本語を否應なしに學ぶであらう。日本語を羅馬字に書いて外人の便を謀るなどは卑屈根生だ。

我等は少數の外國人の爲めに日本語を羅馬字に書けと言ふのではない。日本人自らの爲めに國字を改良せよと言ふのである。日本人は主である外國人は副である。日本人は國字の中毒を受けて居る。『自家中毒』に罹つて居るのである。

●更に進んで國字の爲めに日本人が實際生活の上に日々損失せる時間の總計は大したものである。日本人は國字の爲めに毎日幾十年を煙に化しつつあるとも言へる。忙しい世の中に、これはまたあまりに大きな損失ではあるまいか。

●「時間タイムズは金だ」と言ふ諺は、今日では英國のみの特有では無い。日本でも時間が金に化しつつある。獨り金のみではない。「時間は生命」である。短かい人間の生活時間を國字の爲めに奪はれては、つまらぬ事でないか。

●國字を必ず羅馬字にせよとは言はぬ。外に適當の方法があれば何も羅馬字を無理に用ゆる理由はない。若し他に然るべき方法が無ければ、羅馬字にしても悪いことはいではないか。

●日本の商店、會社、銀行、問屋、官衙、新聞雜誌其他文書の交通などに關係を有するものが、國字の爲めにどんなに時間と人手と費用を失ひつつあるか。これは恐らく大したものであらう。若し國字を羅馬字にすればその爲めに多大の利益を得ることが出来る。

●日本での出版物は漢字の傍に假名なづを附するを通常とす。實際よく考へて見ると滑稽至極では無いか。今はこんな遊び半分に暮す優長な時勢ではない。

●日本人が若し自國に於ける文明の發達を希はぬならば、それは兎も角、苟も日本をして世界に雄飛せしめんと考を有する以上は、國字の改良などは當然行はるべきことである。文明の世は短小の時間で多く學び、多く働き、且よく遊ぶものが勝を占むるのだ。二六時中働きつづけ、日曜日すら保養し能はずして日本人が世界で永久の勝利を得んなどは無理の注文である。若し出来れば奇蹟とも名け得らるであらう。

●要するに國字改良は最早免るべからざる時勢の要求である。我等はその方針を早く一定して實際上に應用せられんことを希望して止まないものである。

獨逸國の出生數と結婚

獨逸國では、凡そ十六年前以來、出産の數が段々下り坂になつて來た、第四番子がポツ／＼と闕け出した、佛國では、第四番子が闕けて居る。そして、人口が年年減じて行く、人口を増して行くには、第四番子がなくてはならぬ。過ぐる百年この方、獨

逸の人口は、非常な勢ひで増加して居たのである、文明が進んで生活の程度が高くなると、子供の数の多寡は、忽ち生活問題に關係する、随つて子供の數そのものに加減をする様になる。

▲出産數の減少 千九百七年には人口千人に就き出産兒三十三人二分であつたが千九百八年には三十三人となり千九百九年には三十二人に下つてしまつた。それから十五歳乃至五十歳の既婚婦人千人につき千八百七十六年より同八十五年までの一年平均は二百六十八の出産數であつたが、千八百九十五年から千九百五年までの平均數は二百四十三人となつてしまつた。殊に大都會例へば伯林の如きは千九百十年度にはたつた八十三人六分となつてしまつた。此伯林では、佛蘭西の如く第四番子と云ふものは全く闕けて居るのである。

▲結婚數の減少 人口千人につき結婚數は千九百七年は八・一で千九百八年には八・〇となり、千九百九年には七・八、千九百十年には七・七と漸々減少しつゝあるのである。

出産の男の子は、女の子より百人に何四人多いけれども、現在の男女の數は男より女の方が遙に多い、これは男兒が女兒より多く死ぬるのと、男子は、國外へ軍隊に出るもの、數が多いからである、従つて二十乃至三十歳の結婚年齡に達した頃は既に女の數が男より多いのである。獨逸の法律では結婚の最低年齢は、男子二十一歳、女子十六歳と定めてある、千九百十年度の統計を見ると、男子は二十五歳乃至二十六歳で結婚するもの最も多く、女子は、二十二歳乃至二十三歳のものが一番多い、併し六十歳及びそれ以上で結婚した男子は、約四千人に上り女子も千人程あつた賣れ口よき娘は、どうも持參金の多いもので、何處の國でも、金の威光は中々えらい、殊に生活程度の高い處では、金がもの言ふ世の中である。併し持參金結婚と云ふことを好まぬものも中々ある。それについて賣れ口のよいのは、何か適當の職業を習ひ得た娘、これは結婚の後にも此職業で家計を助けて行くことが出来るからである。

▲分娩奨勵の議 男の數が女の數より少い上に、アルコール中毒や、微毒で死ぬるも

のが多いと云ふことは、困つたことである、結婚の数が少くなり、且出産の数が減ずることは更に困つたことだ。お隣の佛蘭西のやうになつては、國運の盛衰に關すると云ふので、或人のうちでは大に頭を悩まし、出産奨勵のために、子供の多い兩親には税金を少くし、教育費を支出するやうにでもしたらよからうと唱へ出して來た。

接吻の包圍攻撃

西洋は接吻無くては夜の明けぬ國である。逢つては接吻し、別るるに接吻し、相愛して接吻す。日本に於て接吻を見ること能はざるを聞きて西洋人の驚くこと甚だし、どうしてそれで愛情が表はし得らるるでせう？ とは多くの人々が稱へる處である。日本人間に存在する愛情は餘程違つたものとしか思へないなどと言ふものすらある。接吻の誕生は蓋し餘程古いものであらう。愛情と同時に生れたものであらう。接吻と愛情とは思ふに双兒の關係かも知れぬ。西洋で接吻の行はるる範圍は餘程廣い。人

跡のあるところには必ず接吻が存在して居る。

家庭に於ては勿論接吻が日常行はれて居る。西洋にて人若しある鐵道驛に立てば必ず接吻の數組を實見すべし。愛情の表出とあつて人が見て居ると否とは素より關せない。併し勿論これは夫婦、親子、親族の間柄である。

西洋では右の外に一種の接吻がある。これは社交接吻とでも名けらるべきもので、男子が婦人の手にキッスをするのである。既に中流以上の婦人にして此禮式に馴れたるものは、先づ男子と軽く手を握り然るのち自ら其手を舉げて男子が其手にキッスするに便ならしむる。

客の出迎へ若くは見送りと言ふやうなことも大抵は家父がやる。家婦は應接室にチャンと沈坐します。來客は先づ家主に導かれて應接室に入り、茲で主婦に逢ひ、例のハンドクスの禮を守るのである。辭するに臨んでも同じ禮式を繰返す。此禮式は不馴の日本人には少からず迷惑である。僕もこれには少からず參つた。——實際のどこ

西洋人は餘程勝手なものである。西洋に無くて日本に在るものは野蠻の産物だと言ふ。西洋に在つて日本に無ければ野蠻の國だから無いのだと言ふ。西洋には野蠻以上のものが存在して居る。……而かも勢力を持つて……それでも西洋に在れば同じものでも野蠻とは認められぬ。論理も絲瓜へちまもあつたもので無い。西洋には接吻がある。愛情が厚い。日本には接吻が無い。それは愛情が薄いからだ。こんなことを聞いては臍が宿換をする程に笑ひたくなる。

西洋では男と女がクスをやる外に時には男子と男子がクスをやる。非常に厚い愛情を現はすためだ。僕に獨逸でキツス責めに逢つたことがある。

ある年の夏、某傳道館から招かれて傳道旅行をやつた。場所は東獨逸で、村から村へ旅行したのである。旅行のプログラムはチャンと定まつて居た爲め、到る處の新聞に僕のことを記載されて居た。何處も同じことで田舎の人は質朴にして深切なものだ。

僕等の一行が其村の驛に着車すると多勢の男女が出迎に出て居る。これが一々キツスの挨拶だから溜らない。ハンドキツスどころでは無い。男も女も悉く本當のキツスと來て居るのだから、一寸面喰ふのも無理はない。愛情の表顯かは知らぬが石老の男女から臭い香の口をあてがはれては、豪傑と雖も一寸辟易して見なくなるかも知れぬ。別るる時にも亦同じく驛でキツスの饒別を澤山に頂戴し、僕は斯くて此旅行に數百のキツスを貰つたわけである。有難い仕合である。飛んでもない處で飛んでもない貰ひものを致したものだ。キツス研究學者の説によれば、キツスの分類、キツスの方法、キツスと人種、キツスと愛情、キツスと詩歌等中々面白い事實もあると言ふ。が、僕はそれを一々紹介する程に時間の餘裕を持たぬ。

旅 衣

「ハムブルヒツ兒」

ハムブルヒは、獨逸自由市の最も大なるもので、人口八十五萬餘、伯林に次での大都市である。水の市、港の市、商業の市、生馬の目を抜く程に人間が活動して居るのである。

「ハムブルヒツ兒」は、夏冬通じて朝の九時から活動を始めるのが常である。試みに此時間に目抜き街に立つて急がしげに往來する人を見れば、如何に生活が人を忙殺しつつあるかと言ふことがわかる、電車、汽車、自動車は、絶間なく、忙しい人間を運搬して居る。

愈々執務が始まると言ふと、それはまた忙しいことである、業務の種類によつて差はあつても、其仕事の劇しいことは一通りでない。

ハムブルヒは商業上、倫敦、ニューヨークに次での地位を占めて居るのであるから、世界の商業家が、雲集して居る。

商賣は、牛の涎。これ我國の諺なり、茲では、商賣は電と言ふのが適當であらう。機を見るの上手下手によつて、其商業に及ぼす影響極めて大なることは論を俟たぬ。電光石火の如き機敏は、商業家に缺くべからざる性質の一である。

斯くてハムブルヒには、商業王が澤山に住んで居る、金の威光は、洋の東西を問はずして、中々「エライ」ものであるが、「ハムブルヒツ兒」は、祖先より譲受けし財産を貴ぶこと少ない。自己の力で造つた財産を持つて居る人は、これ實に非凡の人として尊重せらるるのである。階級の制度は、他の都市に於けると、其趣を異にし、無位無官のものでも、力量によつて、自己の位置が定められる。金があれば威張つて生活が出来るのである。位置が得られるのである。人若しアルステルの邊に立つて目を注げば、周圍に多數の美はしき住屋あるを見るべし。庭園は美しく飾られ、其の他の裝飾

も美を盡して居る。これ即ちハムブルヒの商業王等の住屋である。機を見、時を知りて、商業の秘訣を悟り、巨萬の富を造つた所の人々共である。ここが即ち忙しき生活に追はるる商業王が、暫時安静を得る場所なのである。

「ハムブルヒツ兒」は斯くして、益機敏となつた、時は金だと言ふ諺もあるが、「ハムブルヒツ兒」は、金は生きて居ると言ふ。商業は機敏の外に、交際の上手と言ふことが必要である。「ハムブルヒツ兒」は、世界各国の商業家と取引する間に、人を上手に取扱ふことを悟つた、人の機嫌をとることを學んだ。これが有力の武器として、商賣を助けるのである。

世界の商業は、其場逃れではいけない、無限責任と言ふものが不文律として成立せねばならぬ。商業道徳と言ふものが要る、胡魔化しては通ら無い、「ハムブルヒツ兒」が、よく商業の秘訣を悟り、世界を相手にして、盛なる取引を行ひ、ハムブルヒをして今日に至らしめたる世界的商業に於ける手腕と言ふものは、何とえらいものでは無

いか。

水の都漢堡

ハムブルヒは水の都である。水が今日のハムブルヒを造つたのである水を離れてハムブルヒは成立しないのである。ハムブルヒは、其の港の發達と共に自己を發達させた。「ハムブルヒツ兒」は地の利をよく利用したのである。水が世界を運んで來た水が世界にハムブルヒを紹介した。水がハムブルヒを今日の地位に運んだのである。水は「ハムブルヒツ兒」の恩者である。忘るゝことの出來ぬ恩者である。

ハムブルヒ港は斯くして長足の進歩を遂げた。世界一の大汽船も此港から出帆するのである。港内に於ける大小各種の船を合すれば七千餘にも上ると言ふ。以て其盛なるを察することが出来る。

港の外にハムブルヒは「ビイネンアルステル」と云ふ大「バナラマ」がある。何しろ市の目抜の場所に此大水鏡を有するのであるから町の壯大と水の美と相和して他の市に

見られぬ光彩を放つて居る。水上には多くの美しい小蒸氣船がある。これに乗じて遙に都市の美を望むことが出来る。

『ハムブルヒツ兒』はよく水を利用することを知つた。その爲に今日のハムブルヒが出来たのである。天與の賜を利用して今日までに開拓したる「ハムブルヒツ兒」の力量は蓋しえらいものであると言はねばならぬ。斯くて水は何時までもハムブルヒを利し「ハムブルヒツ兒」は水を用ふることを怠らず、かうして都市は益發達して止まぬ。水の都ハムブルヒは水の絶えざる限り、其壯觀を失はない、否商業の盛況を他に奪はるゝが如きことは無いであらう。

キヨニヒスベルヒ

我は暫らくキヨニヒスベルヒに止りて、旅衣を洗へり。キヨニヒスベルヒ（プロイセン）は、プロイセンに於ける大都市の一にして、人口約二十五萬を算せる港都なり。ブレーゲル河中を貫流し、別に城池あり。舟を浮べて涼を買ふことを得べく、池の

周囲は、樹木茂り、花咲き揃ひて、心地よく飾られたり。キヨニヒスベルヒの全盛時代は、既に過去の事なれば、市に新らしき時代のものを求むることは難けれど、諸種の建築若しくは名所、古跡等を探ぐりなば、其全盛時代の事も察せられて興味多し。

王城は、市の中央に在り、長さ百五米突、幅六十七米突、四方形の建物にして、中央部に廣き庭場あり、塔の高さ九十六米突、「ゴーチック」型に建てられたり。塔に上れば、全市を一望の裡に收むることを得べく、更に近郊をも眺め得るなり。此王城は、十六世紀より、十九世紀に涉り幾度か改築されたりと云ふ、西側には王城附屬教會堂あり。此教會堂は、極めて由緒深き歴史を有せり、プロイセンの第一王フリードリッヒ第一世、此處にて王位に着きぬ。時は千七百一年のことに係る、越えて千八百六十一年、同じ教會堂にてウイールヘルム第一世、即位式を擧げぬ。此式は極めて壯大なるものなりしとぞ。

きに徴しても明なり。

伯林宮城は、單に伯林若しくは獨逸國內の大建築として有名なるのみならず、全歐羅巴中にも名高きものなり。伯林宮城の主部は「レネサンス」式にして、長方形の建物なり、長さ百六十六米突、幅平均百十五米突、高さ二十四米突を算する大建物なり。(因に宮城の參觀費は、日本の約二十五錢に當る、其収入は慈善事業に投せらるるなり。)

予は今、其歴史及び各室の莊飾等に涉り、これを詳細に記述するの時を有せず、參觀を許さるる莊飾室に關し、極めて概略をのみ述ぶるに止めむ。

宮城内の室數は、約六百を算し、其中多くは、美術品にて莊飾をこらされたり。

「シユワイツエルザール」にて、特に用意せられし上靴を着け、紅赤室に入る。玆には美麗なる机、椅子等あり、別に壁間に王家の既に故人となりし人々の肖像掛かれり、第二室には、壁間に公爵家の人々の肖像あり。

王の間に入れば、プロイセン歴代王の等身像あり、金欄の間には、フリードリヒ大王時代の器具飾られ、大鏡の面前には、當時ハンノーフェルに於ける將校團より皇帝ウイヘルム第二世に送れる「ウオテルロー」柱あり、左側の壁間には、皇帝ウイヘルム第一世の戰場に立てる圖あり。

鷹の間と稱するは、又の名「ブランデルブルヒ」室とも稱せられ、華麗なる緞子にて飾られ、雄大なる歴史畫は、其古を物語る、寶石入りの置物は、燦爛として、室内の美を増せり。

武士の間又の名を即位室とも云ふは、「バロック」型にして、善盡くし、美盡くせりとは此の如き室のことなるべし。金銀寶石は言ふも更なり、大形の歴史畫あり、高價の置物あり。數百の電燈一時に點せらるれば、燦爛として、目を奪ふ計りなりとぞ。

黒鷹の間には、彫刻器具あり。歴史畫あり。赤鷹の室に鬚髯たり。

赤剪絨の間、美はしきこと、また一しほなり、即位式に用ひられし椅子あり、寶玉

あり、歴史書あり。

「カピテルザール」は、嘗てフリードリヒ大帝が、洗禮を受けし室にして、大なる歴史書あり、頭上の電燈數百點すれば、晝の如しと云ふ。

書の間には、數多の歴史書あり。女王の間には、歴代の女王の書を收め、海軍の間には、海軍に關する歴史書を以て飾らる。白の間には多數の皇帝、皇后の像あり。

右の外に、一定の時期に限り參觀を許さるべきエリザベート室、公族室等あり、美を盡くされたりと言ひ傳ふ。以上述べたる如く、金殿玉樓とは此事なるべし、斯かる莊麗にして、華美なる設備は、平凡の筆にて容易に形容し得ず、只僅に一斑を示すに止るを以て満足せざるべからざるを憾とす。

自由結婚の國にも離婚多し

西洋人は言ふ、我等は戀愛を先にし結婚を後にす。事の順序は須らく斯くあるべし。

日本の如く結婚を先にし戀愛を後にするは、事の性質を誤りたるものにして、「不自然」の甚しきものなりと。ウエル、戀愛を先にし、結婚を後にし、すべて自然的に且合理的に成立せし夫婦の間に離婚の頻々たるは如何にも不自然にあらずや。歐洲には離婚せんために訴訟するもの多し。如何にこれを自然的とコソつけんとしても、少々其理由困難なるべし。獨逸などでも離婚の數は増しつつあり。

日本の結婚法が理想的のものに非らずとは、幾ら舊式の日本人でも既に知つて居るであらう。

西洋人の所謂不自然結婚をやつて居る日本に、離婚者の數を減じ、自然的、合理的と言はるる戀愛結婚の行はる西洋で離婚數多く、例へば獨逸の如く其數の増加し行く有様を何と説明すればよいであらうか。百年の苦樂相偕にせんとて相愛したる夫婦が離婚せんために裁判所の門を出入せねばならぬとは、一寸不自然としか思へない。

西洋では權利と義務の觀念が夫婦の間にもチャンと明白になつて居る。夫婦の間に

權利義務争ひをやつてこれを公式の裁判に附するなど、大分不自然である。

西洋にはまた非自然の結婚がある。——西洋人自己はそれでも自然と言ふかも知れぬ——一寸一例を引いて見ると、獨逸國で千九百十一年度に二十四乃至二十五歳の男子にして、六十歳若しくは六十歳以上の婦人と結婚したるもの三人あり、二十六乃至二十七歳にして右と同じ年齢の婦人と結婚したるもの四人あり。自然的行爲としては一寸受取難いやうに思はるるが、西洋人の立場から見れば如何のものにや。理屈を聽いて見度いものである。

男女の中

日本には『遠くて近いは男女の中』と言ふ言葉がある。遠いやうでも矢張り夫婦が成り立つ。西洋では之と反對に『近くて遠きは男女の中』とも言ふべき關係である。

西洋の女は自由自在に男と交際が出来る。二人手に手をこつて散歩も出来る。芝居

にも行ける。夫は娘其ものが選ぶのであるから男との交際を親が否むことは勿論出来ない。娘の氣儘に男との交際をさせる。

青春の男女腕を擁して樂しげに路行くことは、西洋では當然のことになつて居る。併し夫婦では無い。夫婦以上に睦じいように見へる。併し夫婦に成るのは困難である。結婚苦と名けらるる所以である。何故だらう？

答は極めて簡單である。生活苦の爲めである。いくら夫婦以上に睦じい仲でも飯が喰へぬやうでは夫婦の樂みも何もあつたもんで無い。そこで嫁に行くには財産が要る。『妾はどれだけ多くの財産を持つて居ります』と先づ財産の廣告をしてかかると男の方でもよく願く。一名財婚の行はるる所以である。

西洋の女、第一先づ嫁には行けぬものと言ふ覺悟で世に處さねばならぬ。世に處すると言ふのは生活の道を立てると言ふことで老後の爲めに一生懸命で蓄財をせねばならぬ。職業難の間にあつて生活の外に貯蓄して行くと言ふことは勿論容易の業で

は無い。結婚までは働くが結婚してしまつて昔のやうに働かない。娛樂の要求をどしどしと夫にする。

西洋の男は結婚してしまつて全く細君の指揮に従はねばならぬ。妻が夫に行ふ監視も中々手きびしいものである。男にとつては妻帯は一種の重荷である。そこで自由の生活を送りたい男子は結婚をしない。結婚をしなければ、多數の女どもを相手にして遊ぶことが出来る。氣樂なことはこれが第一等である。

西洋の女は、随分氣儘者である。女の中には實際結婚をしたがらぬものがある。氣樂だからである。子を生むと言ふことは女の大厄介物視するところである。結婚はしたいが子は産みたくないと言ふ女は到る處にある。三人も四人も子供を生まねばならぬやうなら寧ろ結婚はお断りを申すと言ふ手合は少からずある。氣儘も此處まで來れば先づ頂上でせうネ。そこで實際上結婚數が減じて行く。これは今日歐洲の各國で殆んど共通の事實と言つてもよいと思ふ。

結婚數の減少は、換言すると未婚者の増加である。此現象は生産數の減少し、私生兒數を増加す。これは男女の性慾が變更せぬ以上は、免れ得ぬ現象であらう。見給へ英國でも獨逸でも皆右の法則にあてはまつて居る。

斯くて獨身者は益々増加して行くであらう。男女の交際が自由に行はるる國に於て獨身者の數が増せば男と女の間で成立せる風俗が餘程の處まで延長するは免れない現象かも知れぬ。西洋の男女は實に近くて遠い間柄である。

新聞を讀む國民

大國民は大新聞を造る。例へば「タイムス」を有せる英人の如き、伯林日報を有する獨逸人の如きは幸なりと言ふべし。大新聞の母は大國民なり。小國民は大新聞の存在を許し得ず。

日本には日本人の所謂大新聞なるものが一ならずある。併し一度これを西洋の大新

聞に比ぶるとその懸隔のあまりに甚だしき爲めこれを比較するなどと言ふことの滑稽なるを知る。此點から言へば日本人はどんなに慾目に見ても大新聞と言ふものを有せぬ。尤も國字と云ふものが新聞の編輯に迷惑をかけて居ることは勿論であるが、これを除外して只に内容丈けを見ても心細い程に幼稚である。こんなことを言ふと新聞屋から苦情が出るかも知れぬ。併し新聞屋さん丈けが其罪の全部を負ふ必要はない。國民の方が、新聞屋さんより罪が重いかも知れぬ。

日本の新聞は今日社會で可なり勢力を有して居る。新聞が先驅して國民を導いたことも過去の經驗に見て少くないらしい。處が一つ問題がある。日本の國民は『新聞を讀む』に非らずして『新聞に讀まれる』にあらざるか。新聞の記事の中には無根のことも時々見える。論說などにも如何はしいことがある。外國の電報などのうちには飛んでもない嘘の皮がある。日本の普通の讀者には外國電報などを見て其出處を檢し其正否の判斷などをなし得る人は極めて稀である。何のことは無い。外國電報など

始めつから讀まないのだから。新聞社が外國電報料の爲めに拂ふ費用は蓋し中々大したものであらう。下らぬ雜報の記事や、三文小説を讀んでそれで『新聞を讀む』『新聞を讀む』と繰返す國民は幸なるかな。日本人には外國に關する智識が乏しい、乏しいよりも缺けて居ると言ふ方が適當であらう。僕は日本の雜誌と新聞が此方面に盡力を致して貰ひ度いと始終思つて居るが、國民が世界的智識を得ることに氣の附かぬ以上は、編輯にどれ丈け骨を折つても、水泡になるより外に功能がない。これでは編輯の方々にもどうも氣の毒である。

新聞を見ると其新聞を有せる國民の性格がわかる。此點に於て『新聞は其國民の性格を廣告する機關なり』とも言ひ得らるる。

どうです、諸君、私通、自殺、窃盜、掏摸、騙落、などと言ふ記事が雜報を埋めて居る新聞を有する國民は名譽なるかな。それを喜んで讀む國民は更に名譽なるかな。

僕は日本の所謂大新聞なるものを讀み、つくづくと涙の出る程心細い感じを幾度と

なく懐いた。

日本に於ける新聞の歴史は歐洲の大新聞に比して素より若い事は言ふまでもない。經濟の點にも、種々の事情あるべし。今日の日本に於ける新聞が進歩しつつあることは事實であらう。併しあまりに其度が遅々である。

諸君。我等日本國民はどうしても大新聞を生まねばならぬではないか。

日本人の眼に映ずる西洋

『見る人のこころこころに任せをきて』

高根にすめる 秋の夜の月』

日本人が西洋を見る、具體的に言へば凡そ二種あり。一は『限局性』にして、他の一は『普汎的』である。例へば日本の留學生にしてある教室に出入するの外、他に求むる處なく、三年や五年居ても、西洋の社會に就て何等知り得たるところなきものは前者

に屬するなり。日本人の多くは此部類に屬す。後者は其個人が専攻の學科を有せること否とに拘らず、居常歐人の性質を窺ひ、社會の組織を注目し、文明の因つて來る所を察するもの是である。忙しき生活をせる人にありても注意せば中々穿つた觀察が出來得るなり。

今、更に轉じてこれを抽象的方面より見るに、凡そ三種の論者あり。曰く『西洋萬惡說』、『西洋萬能說』及び『東西比較說』これなり。

第一の論者は西洋に居乍ら西洋のことが一から十まで嫌なのである。換言すれば習慣でも風俗でも日本の方が、西洋に優つて居ると思ふのである。斯かる論者に限つて西洋の事情に通せざること夥し、『日本の方が何でも良い』と言ふ斷定固持して居るからである。それ故に『喰はず嫌』、『見はず嫌』のもの甚だ多し、神經衰弱を起し、懷郷病に苦みつつあるものはこの部類の人に限つて居る。見るもの、聽くものが悉く此種の人々の癢の種になる。西洋の女は大跨に早く歩く、これが『西洋人は女の癖に威張つて居

る」と見える。西洋の女は日本婦人の如く内輪にチヨコ／＼として居ては用事がすまぬ結果其舉動が劇しい。處がそんな事を一向御存じなきなり。西洋の女は日本の女子の如くに、ペコ／＼と頭を下げず。これがまた癢にさはるなり。西洋ではお天氣の挨拶に二度も三度も腰まで曲げて日本の所謂禮式を行ふ時間がないのである。威張ると見るのは偏見である。

『西洋萬能説』は、前者の反對の見方である。西洋の事物は悉く日本のものに優つて居る。日本と西洋の文明を學ぶ以上は、『西洋全部』が日本の土に移植せられねばならぬと言ふ見方なり。これも西洋萬能と言ふ斷定の固着せる爲めにして、『見ず好き』なり。『聞かず好き』なり。『喰はず好き』なり。

第三者の『東西比較論者』は、東西洋の相異なる所以を察し、其優劣を靜かに研究し、西の長をとりて東の短を補ふを可とする説である。真相を捕へて後に始めて斷定を下すのである。達識の士にあらざれば、蓋し得て期し難からんも、世界に延びんとする

日本國民として、機に應じ、時を利用して文明國の狀を察し、母國の文明に貢獻するのは當然のことである。

見給へ諸君、日本の國民の大部分は西洋文明など言つても、其輪廓すら解して居らぬ。遙々西洋に遊び居る人の數は極めて少ない。それだから此方面から言へば西洋に遊び得る人は大に幸福だと言はねばならぬ。斯かる人々が、西洋の事情に通じ、日本人が學ばねならぬ事柄を説示して、同胞の向上發展を謀ることは、當然の義務ではないか。

海の外へ、海の外へ

『外へ、外へ、海を越えて外へ』とは獨逸帝國がとり來りし方針である。世界政策主義である。海を越えて外へ外へと發展せんには航海業の發達が先頭とならねばならぬ。獨逸のハムブルヒを見よ、ブレーメンを見よ、ハムブルヒは最近非常に長足の進歩

をした、今日は世界で第三位を占むる世界港となつた。ブレイメンはハムブルヒと相對して海外發展主義の獨逸に缺くべからざる港である。僕偶々ブレイメン市に遊び更にブレイメンハーフェンに到り、造船の盛なるを見て、獨逸航海業の發達の一斑を見るこゝが出来た。

獨逸には又莫大の汽船會社を有す。ハムブルヒ亞米利加線並びに「ブレイメンロイド」會社の如きこれである。何れも最初は微々たるものであつたけれども、時と共に著しく發達して現今は既に世界有數の大會社となつたのである。世界を驚かせたる獨逸の巨船「ファーターランド」の如きも獨逸亞米利加間を航海して居るのである。ハムブルヒ亞米利加線は其外、印度、地中海、亞弗利加沿岸、米國の西海岸等に於ける線を有して居るのである。

獨逸の汽船會社は、政府より何等の扶助を受けて居ない、只亞米利加、濠洲、亞細亞等に赴く郵便物を送附する爲めに僅少の扶助を受くるのみである云ふ。

獨逸が現今多數の船數を有し且其航海業を如何に著しく發達せしめしかを知るには統計を見るのが近道だ。即ち千八百八十八年には噸數約百二十五萬なりしものが、千九百年には百六十五萬にも達せんとし、千九百十二年には實に二百九十萬噸を越ゆるに至つたのである。

カイゼルが航海業に多大の興味を有せらることは、既に人の知る處である。獨逸政府が世界の各所に石炭貯蓄所を得んことに苦心せる事は著しい事實である。海軍の仲繼所に便せんとするためである。膠州灣の如きは、此目的の爲めに都合のよい獲物である。

獨逸國の有せる造船所は大小のものを合せば百數十にも上るであらう。其中七八個は巨大なる仕掛のものである。

獨逸が斯の如く多數の造船所を有し、而かも巨大の軍艦をも自らこれを製し得て、外國に注文するの不便を感ずることなきまでに發達せしは、一面海軍の大進歩である。

今は其技術に於て英國の造船所に比して遜色なしと稱せらる。

獨逸は全歐洲の心臓部に在りて内陸軍の精粹を以て鳴り、外に航海業の盛なるを以て世界の王者たらんことを期して居る。海上權の廣汎なる點に於ては未だ英國に及ばず。獨帝が心を勞する所は、如何にして英國の有する海上權を獨逸の勢力内に移すべきかの問題である。怖ろしく慾深きカイゼルなるかな。

獨逸の世界征服主義

世界征服主義の張本カイゼルを戴ける獨逸國民が同じ思想と主義を有して居ることは申すまでも無い。カイゼルは始め此世界征服主義に基き諸種の機會に乗じて國民にそれとなく暗示した。

カイゼルは言へり、『我等は世界の何處に於ても恐るべきものを見ず、我等の恐るべきものは只一の神あるのみ』と、帝は又言ふ、『我等は海を支配せざるべからず。舟の

行く處には我等の國旗を翻さざるべからず』と。世界征服主義の暗示にあらずして何ぞ。

萬難を廢して行はれし軍備の擴張は何の爲めぞ。海の王たらんとすることは、世界の王たらんとするに同じ。カイゼルは實に征服主義の權化である。

一方には勇敢なる軍人を養成し、他方には商工の業を熾にし、科學を高調し、一面より見れば實に世界の王者の概あるに至らしめたるカイゼルが非凡なる帝王であることは申すまでもない。

獨逸が斯くの如く世界に雄飛するに及ぶと共に國民の自信は一層強くなつた。

獨逸は國民皆兵の組織をとつて居る國である。國民が戰爭に興味を持つことは實に著しいものである。

歐洲戰爭の免がれ難きは獨逸國民の頭腦より一日一刻も忘れ能はざりし豫想であつた。否な覺悟であつた。一度軍備の完成する曉には彼れ自ら戰を挑むべしと考へて居

た、とも他からは思はるる。

僕は在獨逸中商人の口より、學者の口より、女子より、小兒より、獨逸人の戦争觀を幾度となく聽かされた。彼等は異口同音に言ふ。見給へ獨は英と、又は佛と、若くは露と戦争するの止むなき日到来べし。白利義と和蘭は自ら獨領に歸することは明である。英國は海軍あれど陸軍は無しと言つても可なり。佛國の兵は強からず、巴里は旬日の中に陥るべし。我等は優に佛露の軍に相對し得べしと。思ひきやこれに尙ほ英及び白の同盟軍を加へんとは。

獨逸の商人程世界的智識を得ることに熱中せるものは他に無いかも知れぬ。外國に在つて商業に従事せるものは其當該國のあらゆるものを研究せんとし、その利害得失を察し、其社會の組織を窺ふことに汲々たる、實にエライものである。

英京倫敦には多數の獨逸人が居る。獨逸商人の數も中々多い。彼等が外交政事などに關する興味は大したものである。僕は幾度となく彼等の催せる集會に列して獨逸商

人氣質を窺ひ得た。在英中僕をして日本に關する講演を數回に涉りて行はしめたるも彼等商人である。

日本人が大和魂を標榜するが如く、獨逸人は獨逸魂(Das Deutschtum)を楯として居る。獨逸商人は言ふ。獨逸魂を世界に敷くは我等商人の義務である。我等は世界征服主義の先驅者たらざるべからずと。その抱負の大なる以て察すべきである。日本の商人など近所にもよれぬ様ではあるまいか。

斯くの如くなれば、彼等は商業に關する智識を求むる外、特に知名の人を招きて外國に關する講演をなさしむ。世界征服を實行せんには、先づ世界を知るの要ありと言ふに基くにあるべけれど、その用意の周到なる驚くに價せずや。故に彼等は商人としての外に尙社會的の智識と經驗に富めり。彼等はまた秩序的の頭腦を有し、事を組織し、また整理するに於て其敏捷なる羨ましい程である。見給へ獨逸人がある他國の一地方に移住するや、先づ學校を起し、教會を造り、新聞を出し、會を設け、病院を建

て、その秩序を追へることは他の國民に誇り得る處だと思ふ。

歐洲戦争は今閑にして、その趣く處を窺ふこと能はず、カイゼルの世界征服主義の運命も亦た知るべからず。何は兎もあれ獨逸人が科學を主んじ世界的智識を得ん爲めに汲々として力を須ゆることは、海の外に發展を要せざる日本の國民には、好個の本たるを疑はぬ。

雪の維也納

●僕は、今日多年住みなれた獨逸國を去つて、埃太利に向ひ、ウングアルンに入り、更に引き返して獨逸に歸り、ミュンヘン、フランクフルト、ウイスバーデン、ケールン、デュッセルドルフを経て、和蘭に入り、アントウアーペンより、船に乗じて英京倫敦に向ふべく旅程に上つた。

此旅程は約數週間。言語と風俗と習慣を異にせる各種の國民に逢ひ、相語り、相談

するの機を得べく、何かと見聞する所、多いことと期待する。即ち筆を走せて、此紀行をものする所以である。

二月一日朝、ミュンヘンなる客舎を出て維也納行の直行列車に塔乗した。ミュンヘンの市を出ずれば、野も山も村も、雪の衣につつまれて、歐洲の冬には珍らしい晴天白日、急行の客車に座せる旅の身ながらも、何とはなしに心氣爽である。

何時しか列車はザルツブルヒに着いて居る。こゝは獨逸の國境、税關吏が型の如く客車内に來て、小荷物を検査する。斯くて今宵の八時過ぎ、僕は埃京維也納の人となるのである。

●維也納！維也納！早くも埃太利の都へ着いた。維也納は、美しい、心地のよい大都會である。足を一度維也納に運びしものは、長久に此都を忘れることが出来ぬと言

ふのも無理は無い。歐洲には、多數の美しい大都會があるのに何故維也納が、殊更に深い印象を與へるのであらうか、これには理由がある。

●市民に愛嬌がある。懇ろに人を待遇する。これが維也納兒の人にすかれる主な原因である。當然行ふべき人間の義務に數へらるることですら、親切に行つてくれると旅の身には、二重に嬉しく感ずるものである。之に反して不親切は二重に不快を感ずる種となる。維也納兒は、此要領をよく解して、客を待つのである。斯くて維也納兒の愛嬌と言ふものは、世界の表に紹介されて、これがまた各國より多數の客をひきつける魔力となるのである。僕は此魔力の中に投じて居るのである。

●一體旅を上手にすると云ふことは、一種の技術である、時間と經濟とを節して、多く、深く、廣く見ると云ふことが大切である。實際風俗や、習慣を研究せんと思へば、上下の社會を通じて見る必要がある。

●維也納に着くと同時に多くの知人を訪ねた。其中には永く日本に居て、日本の風物

を愛し、日本の品にて飾れる日本室を持つて居るカベルマン氏夫妻等もある。この夫妻から晚餐に招かれて楽しい音樂に一夕を過ごした。其他の上流人士とも相會し、或は新聞社を訪ひ、或は娛樂會、舞踏會などにも、足を入れて見た。

●維也納の冬は、他の歐洲諸國の如く、夜の娛樂の最も盛んな時である。舞踏は申すまでもなく、演劇、寄合、音樂會等數へ來れば、此種の娛樂の數は、大したものである。

●維也納は、世界の大都である。各國の人種が集まつて居る。交通の都、商業の都である外に、音樂で名高いことも、人の知る處である。

●今年の冬は、近來稀なる嚴寒にて、梢に積まれた雪は、氷結して、全市恰も日本に於ける櫻の満開に髣髴たるものがある。尤もかく美しいことは無限の興趣を引くけれども、寒いのと、霧の深いのとは、全く閉口して了つた。

●維也納にて見物すべきものの數は非常に多い。諸種の建物は廣大なものである。交通の機關は著しく發達して居る。周遊車に搭すれば、全市を廻ることも出来る。僕は

訪問の餘暇を利用して、宮府美術館、市廳、議事堂、病院、學校等を觀たが、其設備の廣大にして、整頓せるには、他國のものが見ても心地よい次第である。

●料理は維也納に於ける名物の一つで、維也納の粉料理、「シュニツェル」等は、名高いもの。これは誰でも知つて居る。維也納は、また珈琲の名所である。珈琲店と言つても、中々大仕掛なもので、數百人の顧客が、處せまきまでに押つめて居る圖は、迎も日本では見られぬ。何しろ大小の珈琲店、三千五百以上に達すると言ふのであるから、盛なことは推して知ることが出来る。

●快活にして、しかも愛嬌ある維也納兒、わけて美人多き都に別れを告げて、今日は、ウングアルンの主府ブダペストに向ふのである。僕は胸の裡で叫んだ。維也納よ、維也納もよ！さらば、さらば……

浴場の都

●ブダペストはウングアルン國の主府、人口百萬を算し、今では世界的の大都市である。市街はドナウ河によつて二つに分けられて居る。山上の王宮と、これを距る遠からざるマチエス寺院とは、共に市を飾つて居る。

●ウングアルンには別にウングアルン語があつて、諸事此語を用ふれども、「ホテル」商會等にありては獨逸語を用ひて何等の不便を感ずることがない。獨逸語を解する旅人には、心地よく其用を足して行くことが出来る。

●ウングアルンは農業の盛な土地で、主なる産物に砂糖がある。葡萄酒の醸造も盛である。全住民の四十「プロセント」は外國人だと言ふことである。

●ブダペストの市人もまた維也納兒の如く、愛嬌のある極めて人すきのする國民である。何故か日本人に對して、驚く可き程の厚意を有し、友の遠方より訪ひ來れるを迎ふる如く、心置なく打ちくつろぐ所は誠に心地がよい。

●ブダペストの王宮は初めマチアスコルウイヌス王の經營したものであるが、後土耳

其軍の爲に破壊されたのをマリア、テレジアが再建して今日に至つたのである。王宮内の室數實に二百數箇の多きにする。

●ウングアルン人は、少々日本人に似た所が多い。一例をあげると湯好きの國民である。浴場の發達せることは、全歐羅巴中ウングアルンの右に出づるものはない。ブダペスト市では、現に數個の大浴場を有せるに拘はらず大規模の浴湯を建設中である。

●湯の設備は實に行き届いたものである。各箇の浴室は申すまでもなく、溫度を異にした游泳場がある。體操室、按摩室、寢室、化粧場、遊戯場、新聞雜誌縱覽所、雜貨店、書籍店、珈琲店等がある。日本の如く、到る處に鑛泉を有しながら、其設備の發達これに伴はざるは、惜しいことである。寧ろ恥かしいことではあるまいか。(ブダペストにて)

獨逸婦人の壽命

「女は家の柱なり」と謳はるゝ獨逸に於て、婦人の壽命が著るしく長くなりしことは、

何より結構のことにて、婦人萬歳と唱ふべきである。試みに一、二の統計を擧げて見ると、千八百七十年から千八百八十年までの間の、獨逸人壽命の平均は、四十二歳半であつたが、千八百九十年から、千九百年間の、婦人平均壽命は五十五歳である。實に驚くべき好成績である。

これに對し男子の生命持續は、どの位であるかと云ふに、千八百七十年乃至千八百八十年間の平均は三十八歳、千八百九十乃至千九百年間の平均は、四十八歳半になつて居る。即ち十年間に、平均十歳以上の生命を延長し得たわけで、國民衛生上、大に喜ぶべき現象である。

右の成績によると、男子より女子の方が、平均六年以上長生するわけである。これはどう云ふやうに説明せらるべきものであらうか。

男子は、生活上殊に經濟の點に、多くの力を須ひねばならぬ、女よりも早く力を費し盡すものと見ねばならぬ。

右の事實によつて適當の仕事は、健康を害せないことが明白になつた。即ち獨逸に於ける婦人の職業と云ふものは、以前よりは餘程増して來た。精神的にも、また身體的にも、然るに生命の持續は右の如く増して來た。神經質のものや、「ヒステリー」と云ふやうな婦人好愛のものも、減じて居る。尤も衛生上の設備が進歩したことは、忘るべからざる條件の一つである。

兎に角、適度の仕事は、健康に害を及ぼすものでない、却て飽食暖衣の人が身を害ふのである。

英國にては、婦人と職業の關係は、獨逸よりも、尙烈しい。併し英國婦人の平均壽命は、五十六歳にまで達して居るのである。

壽命の長短によりて、人間の價值と云ふものを上下することは出來ぬ、要は價值ある人生を送ると云ふにある。然らば身を護り、體を養ひ、價值ある人生を、長く持續して、己と人とを益するやうに努めることは、大切なことであらうと思ふ。

酒の國

『酒を飲むなら獨逸へ御座れ』

獨逸よい國酒の國』

獨逸は酒の本場である。麥酒の故郷である。酒は獨逸國の上中下の各社會を通じて、必須の日用品となつて居る。見給へ獨逸國民が年々酒のために拂ふ處の額は、三十億馬克以上に上る。これでこそ、酒の本場と言つて恥かしくはあるまい。何しろ水を飲むやうにガブ／＼とやられるのだから、堪らない。

最近獨逸の文明は著るしく進歩し、今日では、獨逸は世界の科學國として、雄飛して居るのである。酒害が如何なる方面に影響を及ぼすかは、獨逸の學者が、種々の方面から、これを試験し、これを證明し、更に警告して居るのである。然るに斯くの如く多量に用ひらるゝことは、一面實に不思議の様に思はるゝが、これには凡そ二つの大

原因があると思ふ、その一つは、酒害の如何に恐るべきものなるかと云ふことが未だ汎わく、知れ渡つて居らぬこと、もう一つは、因習の久しき、中々一朝一夕に改められないと言ふことである。

心あるものは、如何にして、獨逸の國民をこの酒より遠ざけることが出来るかと云ふことに就て苦心をして居る。非常に困難な仕事である。獨逸國に於ては、到る處に多數の麥酒舗あり。これ即ち需用のある證據である。

見給へ、伯林に於ける敷地の數は、千九百五年に二萬四千四百九十三で、其中に一萬三千八百十八軒の料理店がある、即ち伯林では、少くとも第二軒目の家は料理店である勘定になるのだ、そして年々伯林市の料理店へ拂はるゝ酒の價は二億零六百萬馬克に上ると云ふことである。麥酒の盛なる以て察すべしだ。單に伯林のみが殊にひどいと云ふわけでは無い。其他の大都市は矢張りこれに似た有様なのだ。

この結果は、種々の方面に於て、事實に現はれて居る、伯林で、酩酊の爲に警察の

手を煩はしたものは、千九百五年に於て、男子五千四百八十六人、女子五百六十人、千九百六年に於て、男子五千百十四人、女子五百五十三人である。上流の人々は、此の中には加はつて居らぬ。何となれば、上流の人々が酩酊した場合には、馬車か、自動車で、其の宅へ届けることが出来るからである。

犯罪者の中に飲酒者を多く見出すことも常に證明せらるゝ處である。風俗壞亂等も、酒の爲に現れることが多い。伯林では、年々少くとも一萬人と云ふ多數の人人が、酒のために裁判所の庭を踏んで居るのだ。

酒が、人體の各機關を襲ふことは、既に醫學上種々の試験成績によつて證明せられた處である。此の事實は、病院の統計を見るにチャンと明かに現れて居る。

斯くして、酒害の潮流と云ふものは、獨逸國民の中を循環して居るのだ。此の現象は實に獨逸の國民にとつては悲しむべきことである。慧眼なる獨逸皇帝は、早くも此の點に深く注意し、帝が學生、或は軍人等の前で、酒害に關する講話を試みられたこ

とは、一再に止まらない。尤もの至りである。併し政府は、酒害防禦の目的で、これと言ふ程のことをしては居ない。

禁酒會と稱するものが、民間に、二、三設けられて、中には中々有力なものもあるが、多数の國民に比すれば、此等會員の數と云ふものは、殆ど大海の一滴とも云ふべきである。どの位花柳病の防禦を嚴にしても、どの位風俗壞亂豫防を企てても、酒害防禦を共に行はれぬ以上は、其の効果と云ふものは、左程に擧らないと稱へて、酒害防禦に努力せよと頻に政府にせまる學者もある。何は兎も角、酒と云ふものが、獨逸國に於て直接と間接に恐ろしい弊害を與へつつあると云ふことは、事實である。

斯かる事柄は、獨り獨逸計りでは無い、英國でも佛蘭西でも同じやうな状態である。我が國などでも『酒は百樂の長』など言つて盛に飲んで居る。國民衛生の上から言つても、社會改良の上から言つても、歐羅巴の現象を對岸の火事視するべからざることには勿論である。

獨逸商業組合の組織を見よ

●獨逸の商業が益發達して、世界に重きを爲す事は日に月に著るしくなつて來た。従つて其の組織の整頓せること世界に其比を見ないことまで讀へられる。

●商業組合は無論多數に存在して居るが大勢力を有する代表的の商業組合は、ドイツ・ナチオン、千八百五十八年商業組合及びライプテヒ商業組合の三つである。

●規則的と進歩的の頭腦を有せる獨逸國民は、矢張其商業の點に於ても遺憾なく其國民性を發揮して居る。右に擧げた三大商業組合の目的、事業等其他詳細のことに至つては、大同小異であるが、其整頓せることの一斑を窺へば、著るしき發達を來たしたのが決して偶然でないことが察せらる。今試みに右の三大商業組合の一なる千八百五十八年商業組合の目的、事業等に涉りて讀者に紹介して見やうと思ふ。

●千八百五十八年商業組合は、其名の示す如く、千八百五十八年に創立されたので、

縮めて單に五十八年會と云ふ、本部はハンブルヒ市に在り、宏大の建築物を有して居る。

●五十八年會の目的は、獨逸商人の地位を向上し、商業界の要求に應ずると言ふので、現在の會員は、十二萬三千人(ドイツツエーナチオンは、實に十五萬の會員あり)を算するのである。各支部は内地と外國とに分かれて居るけれども、本部を中心として、各支部の連絡がよくついて居るのである、機關雜誌は、毎月出る。其外に外國會員のため特別の雜誌が発行される。

●試みに本會の社會的要求を數へて見ると、凡そ次の如きものである。

- 一、執務時間及び休憩時間の厲行、十三時間連續的休息時を與へ、外に二時間食事休息を要す。
- 一、緊要欠くべからざるものを除外として、日曜日は終日休業の事。
- 一、夜の八時には、商店を閉鎖すること。

一、保養休暇を與へること。

一、十八歳以下の者には、其職業的補習教育を施す事。

一、獨逸商業裁判所の完全なる設備。

一、工業に關する女子の職業條令。

一、六週間以上の罹病に在りては、給料を減せずして連續的に支拂ふ事。

一、工業給料條令。

●會員に對する就職紹介は勿論無報酬で行はれる。五十八年會が、千九百二十年度に紹介せし就職者の數は、一萬九百四十名に上り、就職紹介部の費用十七萬三千「マルク」を算したと言ふことである。就職者の最低給料として、左の如く規定されてある。

- 一、滿十八歳に至るまでは、九百「マルク」
- 一、滿十八歳以上のものは、人口十萬以下の都會にて、九百六十「マルク」、人口十萬以上の都會にて、千八十「マルク」

一、満二十歳以上のものにして、人口十萬以上の都會に於ては、千二百「マルク」(「マルク」は我國の凡そ五十錢に當る)

●本會の助力に拘はらず、就職の途を得ざるもの又は一定の約束期限満ちたる後、他に就職口を求め得ざる場合には、本會の基本金中より補助することになつて居る。之は入會後二年以上を經過せる會員に對して行はるゝ特典である。
其保護金は左の規定によるのである。

二年	毎日	一マルク五〇	九十日以内
五年	毎日	一マルク七五	九十日以内
十年	毎日	二マルク	九十日以内
十五年	毎日	二マルク	百廿日以内

右の中尙増額の保護金を給せらるゝものは結婚せる會員であるが、これにも小供の有無其數の多寡によりて違つて居る。未婚の會員にして、他の地方に就職する場合に

於ては、此轉職地に移るために要する旅費として、三等の乗車券を交附するのである。

●千九百十二年度に於て、本會が支出せし補助金は、約五萬七千八百「マルク」(日額補助)、二千三百九十「マルク」(家族保護)、四百五十五「マルク」(旅費)右合すると、約六萬六百五十「マルク」の巨額に上るのである。本會の貯蓄資本金は、千九百十二年十二月末の調査で三十六萬八千六百五十六「マルク」に上つて居るのである。

●會員に關する出來事、例へば、就職先に關する不平、若くは不正等の如き事に關しては一切組合本部の方で面倒を見る組織で、千九百十二年度には、斯種の事件が八千六百十八個もあつたと言ふことである。

●本會の疾病金庫に關する新規定は、本年一月より實行せられつゝあるもので、特別の場合に於ては、醫師の診断無くして疾病金庫より毎日三「マルク」以下を愛くることが出来、又義務會員ならずとも、随意に醫師の診断を受けて、同じく三「マルク」以下を受くること出来る。其他身體の健康状態に危険を伴へるものも、疾病金庫から、補

助を受けることが出来る。醫者の治療、薬療品は、滿一箇年間續けて受けることが出来る。但しこれは十三週間以上疾病に罹つて居るものに限られて居る。

●二箇年間己に會員として、會費を納め來りたるものは、一箇年間連續して疾病金庫から毎日扶助金を受けることが出来る。不具、畸形となりたる場合には、五十「マルク」乃至百「マルク」を仕給する。疾病の治癒期に在る者には、病者と同じく強壯劑、牛乳等が仕給される。疾病金庫より扶助する額は、其會員となりし年限の長短と金庫の階級によつて差がある。即ち二、二五「マルク」より七、三五「マルク」の間を上下して居るのである。休暇中の會員が安價にて愉快に保養の目的を達し得る爲に、風景よき健康地を選んで保養院が設けられて居る。

●其他會員は團隊旅行をする、これは勿論休暇中に行はれるのであるが、保養を兼ねて、修學、見學、名所舊跡見物の目的も含んで居る。

●特に外國在住會員の爲めにウアンデルブンドの組織がある、これは在外國會員を保

護し、母國に對する智識の増加を謀り、愛國の情を盛んにし、同胞の教育をはかり、精神と身體の健全を期すと言ふのが目的である。この爲に諸種の方法を行つて居る。例へば圖書館、紹介所、機關雜誌無代頒布、會員災害に罹りて死亡の場合には、千「マルク」を下附すること等である。

●機關雜誌は、内地會員には毎月二回(デル・ハンデルススタンド)外國會員には、別に毎月一回(デル・ハンデルススタンド・イム・アウスランデー)頒布せらるゝ。これには、各地支會の報告及び商業上重要な問題が記載せられる。千九百十二年度、本會が雜誌の爲に支拂し額は、二十餘萬「マルク」に上つて居る。

●其他別に若き商人と題する月刊雜誌あり。これは、主として教育的記事を掲載し子弟部の會員に頒布される、これに關する千九百十二年度の支出十八萬七千餘「マルク」此の外尙二種の雜誌が出て居る。

●尙會の事業として補習學校あり。出版部あり殊に出版部に於ては多數の書物を出版

して居る。素より商業に關するもので、何れも低價で會員の需めに應じて頒布せらるゝのである。

●思ふに我國商業は、これから大に發達しなければならぬ。日本の商業が世界的大發展をするには、どうしても確實な基礎の上に立てられねばならぬ。これに要する二大要素は、理論と實際とである。獨逸人は、よくこれを調和して世界に商業の王たらんことを庶幾して勵んで居る。例へば日本の所謂大阪的商人では世界に發展は六ヶ敷い。世界的商人となるやう心懸けて、日本の商人が大に努力せられんことを望む。これには商業の智識に加へて世界的智識を養ひ、整頓せる同業者の協會を盛んにし、更に商業道德を涵養せねばならぬ。特に識者の三省を促したい點である。

海を越えて

近頃乃木大將、毛利公邸内に於ける同氏歡迎會に臨み、談偶歐洲視察談に及ぶや、

歐洲軍隊や學校を見、翻つて我國の事業を見ると名のみにして其實なきもの多し。奮勵努力すべきことの要を切實に感じたりと歎聲を發せられたと日本の新聞に見えて居た。これ實に詐らざる告白だと思ふ。實際今日の日本人は、努力と奮闘の外に何物をも顧る暇を有せぬ程でなければならぬ。

一體日本人は世界的智識を得ると言ふ精神に乏しい。斯く言へば馬鹿なことを言ふな。留學生や、視察者が幾百人入れ代り、たち變りて歐山米水を見て居るではないか。と、ウエル、それは事實である。併しそれ丈では十分でない。日本人全體の數に比して殆んど數に入らぬ位である。僕はそれ故に一人でも多く海外視察をやる人の多きを望むのである。學校や、銀行や、會社や、事業家からドシ／＼と人を海外に送つて見聞を廣くするやうに勉めて貰ひたいと思ふ。近くは支那や朝鮮、次では南洋、或は印度方面、さては歐米と云ふ具合に。多くの日子を存する人は勿論他國の事情を研究するには好都合である。併し時間が多くなければ視察旅行をして驅け廻つても少からず獲

物が出来る。そして斯かる人々が日本の状態を改良する動機となつて貰ひたい。また一面には日本の一般人民を導いて、日本國家の發展に資するやう、盡力致して貰ひたい。それでなければ、日本國家の前途が危ふまれます。

いつまでも歐洲文明の恩澤をのみ受けて居るのは、我等の理想ではありませぬけれども、今日の日本はすべて準備の時代です。先進國を見習つて自分の腕を磨くのが近道です。僕の『海の外へ、海の外へ』と云ふは此點です。

日本はまだ到底『海を越えて』發展せねばたち行かぬことに成つて來ました。海の中ではないけない。どうしてもいけない。若し海を越えて發展が出来ぬならば、これは日本帝國の存亡に關します。

獨逸に於ける婦人社會事業

獨逸人は、何でも組織することが上手である。婦人の社會事業を見てもその有様が

よく現れて居る。

獨逸には婦人の會が數千も出來て居る。然るに今より凡そ二十年前始んど全獨逸の婦人會を統一する中央機關が出來た。獨逸婦人會協會である。今日は二千六百五十餘個の婦人會がこれに加はり、其會員數は實に五十萬を算すと云ふことである。此協會の設けられた目的は、獨逸に於ける各種の婦人會を總括して、婦人事業の目的を達するに易からしめんとするにある。それ故此協會は、各種の婦人會と常に連絡をとり、相互の意見を交換し、且各會員に、事業の性質及び其範圍を擴張する機會を與へ、特に婦人の事業として必要の問題が起つた場合には、相互にこれを研究し、且婦人運動の要求は、これを多數の賛同を得て、爲政者に刺戟を與へること等が其主要なものである。

此協會に屬する會員は、凡そ左の如くに分かれて居るのである。

即ち各種の婦人會に屬して居る會員は、同時にまた本協會の會員である。

婦人協會の所謂婦人會組合と稱するものは、獨立の會で、會長並に會計員を有し、一定の目的を立てて、會員の討議によつて事業が行はれつつあるもので、少くとも五個以上の地方に十個支部會を有するを條件とし、會費としては、毎年四十「マルク」を協會に支出し、總會には、三名の代表者を出席させると言ふことになつて居る。

婦人會として、右の協會に屬せるものは、獨立せる支部會又は組合に屬せる婦人會で、組合の紹介にて協會に加入したるもの、但し會員三十名以上を要す。百人以内の會員を有する婦人會よりは、毎年十「マルク」、百人以上の會員を有せる婦人會よりは、二十「マルク」を毎年協會に支出する。

婦人協會の幹部役員は、會員中から七名選出される、(一名の會長、二名の副會長、三名の庶務、一名の會計)幹部役員は、四個年毎に選出され、總會は、毎二年一回催されるのである。

獨逸婦人協會は、萬國婦人協會 (International Council of Women) の會員で、獨逸婦

人協會の役員は、萬國婦人協會の *ex officio* と云ふ役に當つて居る、此萬國婦人協會は、世界各國の婦人會を總合して居る大きな組織で、毎五年に一回總會が催される。

獨逸婦人會協會の事業

獨逸婦人會協會の目的は、上文既に述べた如くであるが、其方法として、左の事業を營んで居るのである。獨逸婦人會協會雜誌は、毎月二回發行され、其外に左記の會報が發行される。

ライン、ウエストフアールン婦人會會報、婦人教育會々報、婦人と國家、婦人と職業。

右の外に獨逸婦人會協會に屬せる婦人職業館あり、館長は、レゾー、ラテナウ夫人で、他に一人の醫學士、二人の哲學士及び法學生(勿論何れも婦人)が、此事業を扶けて居る。ここでは他會又は他人より依頼されたる仕事を完成するのである。

其他に尙ほ婦人就職紹介所あり。

獨逸婦人協會の中には、また四個の委員會成立せり、使女問題、女子料理店員改良

問題、普通選舉問題、及び刑罰に關する請願問題を研究して居るのである。

各婦人會の事業

以上述べたのは、獨逸婦人會協會の事業であつて、各種の目的を以て設けられたる諸種の婦人會を總括して居るのであるから、勢ひ其事業の總括的になつて居ることは、申すまでも無い。

我等は、これより進んで獨逸の婦人が社會の方面に如何なる活動をして居るかを研究して見たいのである。先づ第一に擧ぐべきものは

普通の婦人會。これは大きな會で、直接會員千二百名、十四個の支部を有し、五十個の會と相合し、一萬四千人の總會員を數へ、目的は、婦人の職業範圍を擴張し、婦人の權利を擴張することである。

女教師組合。支部百三十六、總會員三萬三千名、目的は學校の保護、女教師の各方面に於ける位置の向上を謀る等である。

高等女教員會。七百三十名の會員あり、智識の交換、各支部會の報告等を主なる目的とす。

音樂教師會。會員二千二百二十八。

ライン、ウエストフアレン婦人會。會員一萬九千、婦人問題を研究するのが、主要の目的である。

シユレージエン婦人會。一萬二千名の會員あり、婦人に關する經濟、法律、精神教育等に關し、婦人運動の思想を實現せんことを力むるを以て、本旨とす。

女子官吏組合。會員五千三百人、官吏養成の改良、俸級の増額、寄宿の廉價、保養所設置、集會所設置、教育所設置、講習、冬期の手當等が主な目的である。

バーデン婦人會。會員四千五百、精神的、經濟的、法律的、社會的に、婦人の地位を高めること、慈善事業に力を盡すことが目的である。

看護婦會。會員三千五百、養成教育の改良によつて、其地位及び報酬を高めること、

劇度の勤務に對する適當の保護、將來に於ける地位の保護等が、主要の目的である。

サクセン産婦人會。千四百七十七名の會員あり。

禁酒婦人會。會員二千二百、四十八個所に地方支部會あり。

アルコール性飲料防止會。會員四萬三百名。

新教婦人會。會員一萬五千人、宗教上の見地より、婦人問題を研究す、宗教及び風俗の改良、人類生活の向上を謀ると言ふのが目的である。

獨逸婦人組合。會員三千五百名、目的は、婦人、處女共に、家庭、職業、宗教等の何れたるを問はず、國家及び社會に關する問題を研究すること。

フレイベル會。フレイベル式教育法の發達を謀る爲めに設けられた會で、會員七千人を有す。

處女指導會。會員千四百名、目的は處女の精神及び身體の健全なる發達を謀り、生活より生ずる危機を遮り、十分の保護をすること云ふのである。

青事者保護會及び社會保護會。會員七千三百六十三。

婦人衣服及び婦人文明に關する會。この會は、婦人の身體を保護する目的にて、非衛生的の流行服の使用を防禦し、衛生的衣服の需用を奨勵し、婦人學に關するすべての點を研究することを目的とし、會員四千五百を算ふ。

殖民婦人會。會員一萬七千名、目的は、殖民地に赴くべき婦人の便利を謀り、殖民地に於ける小兒の教育、殖民地の婦人、兒童保護等が主要のものである。

猶太婦人會。會員三萬四千名、國民の教育、猶太人の職業問題、風俗習慣の改良、處女賣買の防止、猶太人國民性を強持すること等が、目的の主眼である。

婦人選舉權運動會。二十二個の地方會と、九十一個の支部會とを有し、會員九千人を算す。

東獨逸婦人選舉權運動會。會員一千人。

西獨逸婦人選舉權運動會。會員一千五百人。

プロイセン婦人選挙権運動會。會員四千二百人。
權利保護に關する婦人會。九十七個の加盟會を有す。
婦人商人會。會員三萬四千、婦人にして、商業に従事せるもの、これが會員たり。
郵便電話技師婦人會。六千六百名の會員あり、四十八個の加盟會を有す。

右はほんの一部を示したに過ぎぬ。二千六百餘の會を一々紹介することは、逆も此で處は出來ぬ。

婦人事業の範圍

上記の如く、獨逸に於ける婦人會事業は、随分進んで居る、從て其範圍も仲々擴大されて居るが、凡そこれを左の數項に分かつことが出来る。

甲。内地に於けるもの

- 一、婦人問題の一般を研究するもの。
 - 二、職業に關するもの。
 - 三、慈善、保護に關するもの。
 - 四、經濟、法律に關するもの。
 - 五、教育、學術、技藝に關するもの。
 - 六、禁酒に關するもの。
- 乙。外國に關するもの（殖民地）

詳細に區別すれば、右の外に尙ほ多少の項目を設けることが出来るけれども、大略は、右のものと見て差支はない。

既に上文に示した通り、此大多數の會は一の中央機關に聯結して、各種會合の働きぶりが、悉く中央部に映るやうになつて居るので、中々便利な、進歩した組織である。其外別に獨逸婦人會協會に加盟せざる會あり、これは入會の條件、或は其他の理由

に基くものであらふ。其數も可なりあるやうである。

婦人會事業の方法

婦人會事業の方法を研究することは、興味のあることであると思ふ。

素より事業の種類によつて、方法の區々に分れ居ることは勿論なれど、大略を擧げて見ると、

- 一、集會。これには、例會、總會、講演會等あり。
 - 二、出版物。機關雜誌、趣意書、類書、著述等あり。
 - 三、陳列會。
 - 四、圖書館。
 - 五、講習會。
 - 六、各種専門の設備。例へば就職館の如き。
- 等が其主なものであらふ。

婦人事業に關して、尙ほ二三の重要な問題を擧げて見やう。第一は、

婦人と職業

の問題である。

生活の困難なるにつれ婦人の教育程度の進むにつれ、婦人職業の範圍が擴大されつつあることは、何れの國でも同じことであるが、其勢力は、獨逸に於ても仲々盛なものである。

各種の婦人會に於て、職業に要する豫備教育若くは、講習を設けて、就職者の便利を謀りたるもの少からず、婦人の指導者丈けでも二千百餘人に上つて居る、其中主な職業は、裁縫、寫眞、製本、理髮等が多いと言ふことである。

官吏として、就職せる婦人の數も増加して來た、例へば、國立保險局の如き、其他

鐵道院の如きこれである。昨年度には、伯林の女子監獄に於て、女子の監督者が出来た、恐らく獄長が婦人の手に歸するものも遠くはないかも知れぬ。

婦人公共的職業

として擧ぐべきものは、蓋し一にして足らぬ、例へば醫師の如き、音樂美術家の如き、技藝家の如き、著述家、記者、教師、看護婦、其他慈善事業に従事せるもの等、皆これに屬するのである。婦人が、男子と共に、女性の有せる特徴を各種事業の上に發揮して行くことは、文明の要求で、右に擧げた女子の職業も、年々増加して行きつつあるのである。斯くて女子職業の範圍は益々擴大されて行くであらう。

* * * * *

以上、獨逸國に於ける婦人事業の一斑を示したが、顧みて我國の婦人社會を見ると如何であらう。日本の婦人事業として擧ぐべきものは、果してどれ丈けあるか。婦人

の特性として擧ぐべき點は、蓋し同情心に富んで居ると云ふことが、其一つであらふ。此故に何れの國の歴史を見ても、婦人の手によりて起され、又は婦人の手によつて營まれつつある慈善的事業を見出すことが出来る。家庭に於て、婦人の力を要する如く、社會の事業も婦人の力を藉らねばならぬ、社會の組織が繁雜となり、文明が向上するにつれて、社會事業の發達を要することは申すまでも無い、此間に在つて婦人が社會事業の爲めに協同的に働くと云ふことは、極めて必要の事である。或は職業の範圍に於て、或は衛生の見地よりし、或は修學の見地よりし、或は慈善の見地よりし、或は法律の一部に屬する見地よりし、約言すれば、文明の要求に應じて、協同作業に従ふと云ふことは、緊要のことである。

自分は、自己の興味に基き、婦人事業の一部を視察し、或は婦人會に列し、或は役員と面接する等の機會を得たが、成る程、經驗の効でもあらうが、其作戰計畫若くは實行の方法など中々上手である。

我國の婦人が、斯種の事業を盛にし、一面には、自己の智識を増し、身を修むる機會を多くし、個性の向上發展を計り、一面には、社會の爲めに婦人の持てる美はしき精神を獻げるやう勉められたきものである。

昔の日本婦人では、今日は不十分である。今日の社會は婦人にも活動を要求して居る。『婦人の個性を發揮し、婦人の自覺を高調し、婦人が受けたる天稟をよく家庭と社會に應用して人類の幸福を謀るにあり。』日本婦人も此意味に於て大に發展を要するることと思ふ。

懷郷病

醫者の手で治し難い病の一つで懷郷病ハイキョウビと云ふものがある。素より程度の輕重は、普通の病と一般であるが、重症のものは、實に驚く程に危険である。

去年の夏、印度洋を歐洲へ向け航海の際、海が荒れて、十數日の間、多數の乗客は、

船暈症に罹つて悩んだが、其時既に懷郷病を起した人があつた。

懷郷病の原因は種々あるが、先づ留學生で言へば、僅少の歳月に、天下を驚かす仕事を澤山仕様、ナーニ本場へ行けば、雜作はあるまいなどと考へて來ると、逆も思ふ様には出來ない、棚の牡丹餅と云ふ風に行かぬ、ジレッツたくなる、厭が來る、月日は待たずに過ぎて行く、仕業は天下を驚かすどころか、天下を笑はせることも出來ない。益々アセる、出來ない、遂に本病に罹つて、こんなことならいッそ來なかつた方が宜かつた等と言ひ出すやうになる。

外國の事物に對して興味を持たぬことも懷郷病の一原因である。留學の目的とする専門の學課の外に何事も知りたがらぬ人がある、この連中がややもすると本病に罹る、これに反して、よく其國風の因つて來れるところを察し、よく國情に通じ、國民の本性を習ひ得る人もある、此種の人は、實は興味が次から次と湧いて來るため故郷の事を思ひ出して、そのために心を悩ます暇が無い、人間と言ふものは妙なもので一生懸

命に何かやつて居るときは空腹すら忘れることがある。丁度これと同じやうで異なる風俗習慣を有する國に居れば見聞仕度い材料が續々として現れて来る。國民の本性を知らんとすれば、縦横無盡に土地の人と交際をしなければならぬ。この國にも悪い事と善いことを共有して居るが、懷郷病に罹る人の常として、其國の善いことは多くは知らぬ、或は善いことも悪しく解して、萬事住みなれた故郷の風俗習慣が善良だと斷案して、留學はつまらんなど言ひ出す。

此病に一度罹ると、他國での治療は中々六かしい、『汝に出でたるものは汝に歸れ』で本國に歸ると、容易に治ると云ふことであるが、目的を達せぬ中に本症に罹るやうでは、遙々の旅行も役に立たぬから、豫防が第一に必要である。海外へ出掛けて海外の事物に對して興味を持ってぬ位なら、イツソ初めから出掛けて行かぬ方が得策であらう。『こんな事なら態々來るのではなかつたに』とつぶやく人なども時々は見受ける。

大人化と小兒化

日本人が早く老衰することは、外國人も既によく知つて居る。殊に日本婦人が早く年をとつてやつれることは事實である。日本の婦人は身體を使ひ破すのだと外國人から稱へらるるが、實際そんな傾がある。成る程日本の婦人は大抵自分でこどもに乳を與へ、教養のことも自分でやる勢でもあらうが、時間の餘裕を造り得ぬことは事實である。朝から晩まで家に居て、ごそ／＼して居る散歩とか運動とか言ふことが出來ない。『外よりも家の中』と言ふのが日本の風である。勿論一面から見るとそこによいところがあるが、人種衛生などの上から云ふとそれでは行かぬ。見給へ獨逸などでは母親が小兒の守をする場合に家の中よりも外に重きを置く、外に連れて出て空氣のよいところで遊ばせる。冬の寒中などに五歳や六歳の小兒を連れて、一緒に氷すべりなどをやつて居る。斯ふして小兒の身體を鍛はせるのである。

一體日本の國民は、どうも大國民の特性が缺けて居る。現代の小兒を見給へ、中々早く大人になる。大人は早く老衰する。大國民は小兒期も長い、壯年になつても中々そう早く老化しない。

日本の小兒が、「大人しくせよ」「大人しくせよ」と父や母から強ひらるることは夥しいものである。大國民から見ると日本人は如何にもこせ／＼して居る、のんびりした處がない。小兒らしい處がない。日本の小兒は早く「大人になれ」と強ひらるのである。小兒らしいことをすると、直ちに「大人の癖に……」「いつまでもこどもではないよ」と言はるる。これ實に小兒に「大人化」を強迫するにあらずして何ぞや、「大人しいこども」は日本では「行儀よきこども」と稱して賞めらるのである。小兒らしからんとしても小兒らしかることが出来ぬ。

大國民は、決して小兒に「大人しかれ」と強ひず、小兒の本性を認むるからである。此故に小兒も安心して小兒たることを得らるる。小兒の幸福ではあるまいか。

大國民は、大人にも小兒心の潑瀾たるを現はす。此故に大國民の上に、「小兒らしき」と云ふ形容詞を冠せしめて、「小兒らしき大國民」と云ふ。これ蓋し綽々として餘裕を存じ無邪氣にして、樂天なるを謂ふのである。

大國民の大人は、時に小兒と共に謳ひ、小兒の如く戯れ、小兒の如く遊ぶなり、小國民より見れば、兒戯に類すと云ひ得べし、然れどもこれ即ち大國民の大國民たる所以にして、小國民の學び得ざる處である。働く時は、一生懸命なれども、遊ぶ時は、小兒の如くにしてよく遊ぶ。西洋に於て大人の小兒化せる有様は、日本にて、小兒の大人化せるに相對して、面白し。

日本に於ては、隠居と稱するものあり、孫の顔を見れば、「安心して隠居が出来る」と云ふ。隠居は其文字の如く、住居を隠くすなり、身を隠くすなり、世より隠くるなり、世のことを願みぬなり。我丈け楽しむなり。一面から言へば、即ち「疲れたる人」である。世の中で御奉公の出来ぬ人である。老骨化である。日本人は老骨化を得々と

して世に吹聴するものがある。耻しいことである。獨逸現皇帝は「我れ休止すれば乃ち鏽を生ず」と言ふ語を座右の銘となせりと云ふ。隱居は、皇帝の所謂「鏽を生じたる人」にして、世に用をなさぬ人である。

一國に老人化するもの多ければ、其國も亦老人化するに至る。日本現代の文明は、國民の老人化を許さざる秋ではあるまいか。老人の少年化を要求せる秋ではあるまいか。

日本の國民は、未成の國民でなければならぬ。まだまだこれから昇つて行かねばならぬ。そんなに早く國民が老化しては、どうして大きな働きが出来ませう。日本人は學校でも出ると「サアこれで樂だ」と言ふ。大國民は然らず、學校を卒業すると「これから腕と頭を造る時なんだ」と言ふ。其間に何と大きな差別があるではないか。

國民教育に重きを置ける漢堡

●各種の博物館 獨逸國に於ける大小の各都市が、巨額を投じて各種の博物館を設立し、専門若しくは、普通學の普及を謀るに努めつゝあることは、少しく國內を旅行したるもの、等しく認むる處なり。設備整然とし、其陳列、説明等が成るべく科學的に行はれ、用意の到れることは、羨むべし。

予がハムブルヒに旅行せしは一再到止まらず、今回は丁度第四回目なり。ハムブルヒも他の各都市に漏れず、多數の博物館を有す。即ち美術館、美術及び工業館、ハムブルヒ歴史館、動物學館、國民學館、鑛物學研究所、植物學館等これなり。予は各都市を観る度毎に、自己の専攻せる學科に關するものを觀るの傍ら、暇を見、時を偷みて、此種の設備を觀るを楽しみとせり。予は、右の中、己に美術館、美術及び工業館、動物學館等を觀たり。他は何れこれを觀るに時あらん。

●美術館 美術館は、伊太利性「レネサンス」式の建築にして、千八百六十七年起工し、同六十九年落成し、約二十年の後に及びて更に擴大せられたり、館は階上階下の二層

より成り、十四世紀乃至十八世紀に於けるハムブルヒ書工の手に成りしもの多數に陳列さるる外、十九世紀に於けるハムブルヒ書伯の製作も數多あり、其他伯林、ミュンヒェン、デュッセルドルフ、フランクフルト、ドレーズデン、維納也より出品せられたるものも多し。右の外に鋼板、金屬性彫刻物等あり。一々製作者の姓名附記せられあり。余は美術には門外漢なり、其製作に就て、批評を試むるが如きことは勿論不可能のことにして、其大作の或ものに就てこれを詳しく紹介するの時に有せざるを憾むと雖も、美術殊に大家の丹精に成りし傑作は、其道に志なきものにも、自から高尚優美の念を起さしめ、人をして畫像より離れ難からしむ。

●美術及び工業館 此館は、千八百七十七年の設立にして、獨逸國に於ける此の種の設備中有名なるもの一つたり。陳列品は獨逸性陶器、武器、彫刻、器具、佛國性象牙細工等の外、日本の品物甚だ多し、即ち陶器、刺繡、金屬性細工物、漆器、武器用裝飾品、彫刻物等の如し、こゝには、一名の日本人、日本品係りとして常に執務せり。この館に

收められたるところの製作品は、歴史上極めて興味多く、殊に各國民の特性なども察せられて、其道の人には好個の研究材料なること明かなり。特に各陳列品に關しては科學的に記述せられたる詳細の目録あり、精巧なる寫眞畫を挿入して、觀者の爲に多大の利益を謀れり、其の他に年報の發行せらるゝあり、特に新に得られたる品目に就て説明す。此等の設備がごこまでもよく規則正しく且行き届けることは、此種事業中の最も卓絶せるものと謂ふべし。

●動物學館 此館は千八百九十一年竣工せしものにして伊太利性「レネサンス」式の廣大なる建物なり。此館に入れば、階下に大魚の骨格(長さ七十五フース)陳列さる、建物は、中央部天井までつき通しにして、周圍に階層を設けられたり。陳列品は、主として動物標本なるが品目の總數は、實に百五十萬以上に涉り獨逸國に於て、第二の地位を占むと言ふ、その陳列も、科學的に分類せられたれば、専門家ならざるものもこれによりて、各地方の動物につき、その智識を増すこと多く、畫にて見、記載を讀ん

で學ぶに比すれば、實物模型は一層便利なり。各人の經驗する所なり。地下層には、研究室あり、標本製造室あり、乾燥室あり、其他一定の期日には館長又は他の専門學者が、館内にて講演をなし、斯學の智識を與ふることを謀ると言ふ、用意到れりと謂ふべし。

以上の外、未だ參觀せざる博物館のことは、他日機を得るの日これを述べん。ハムブルヒは商業の都にして、我國にては、大阪に比すべし。金の爲に餘念なき「ハムブルヒツ兒」が、よく世界の商業界に手腕を揮ふ間にも尙ほ多數此種の設備に巨額の費用を投じて吝まず、學問の進歩に後れざらんことを期するが如き、又近く大學を設立せんとするが如き、道がに世界的商買ツ兒に恥ぢすと謂ふべし。

生活法の進化

吉原大火の電報をつきつけて、君の國はまた大火をやつた。東京の火事は、櫻と共

に、名物の一つたるを失はぬであらうと一外友人から調弄たごかれたことがあつた。火事は昔の如く、矢張り名物の一つである。此名物は東京獨專ではない。恥かしいことである。新聞には、紙と木にて造られたる日本の家屋は、風の扶けを得て、見る間に灰になつたと書いてある。——寫眞まで挿入して——幾十萬の讀者の中にはこのまゝを信するものが多くあるだらう。日本人は、まるで小舎掛けの中に住んで居るのだと。

財産の安全を謀ることは、家屋の目的の一つである。日本の家は、此重用な部分が缺けて居る。安くて建てることが出来ても、燃えてしまへば、また建てねばならぬ、決して經濟ではない。そしていつまでも同じことを繰返して居るのである。不安な生活である。住宅が近き過去一世紀若しくは二世紀の間にどれだけ改良されたか、殆んど認められないではないか。これは衣服の問題と共に相待つて改良さるべきものである。

衣服の改良は、現今急務の一つである。文明は、人の緩慢を免さぬ、停立を許さぬ。

文明は、風雅、清洒のみでは造られぬ、日本人の用ゆる「キモノ」が、日常生活に不便なることは申すまでもない。洋服にも勿論缺典がある。日本の「キモノ」は經濟の上から言へば西洋服に及ばず。殊に婦人服に於て然り。衛生上よりも亦缺典あり。日本の「キモノ」は美術的なりと言ふ。日本服が、果して西洋服に比して、どれ丈け美術の價値が高いかも、疑問である。日本の服裝が、實用上極めて不便なることは、何人も認めねばならぬ。日本婦人の體格、姿勢が、この衣服の爲めにどれ丈け悪しき影響を受けてゐるか解からぬ。どれ丈け生活の不便を招いて居るかわからぬ。昔は靜な身ごなしが必要であつた、緩慢の方がよかつた、今日は緩慢では行かぬ、何事も早くチャキチャキと處理せぬばならぬ。假りに日本服を美術の特徴を有するものと見ても、美術を主として、實用を副とする時代は已に過ぎた、今日は實用が主でなければならぬ。經濟が主でなければならぬ、衛生が主でなければならぬ。

服裝の改良が家屋の改良と共に行はねばならぬことは當然である、日本の家屋が

過ぐる幾世紀間にどれだけ進歩せしや。心細いことである。

日本の家屋内の生活法に於て近來どれ丈け進歩をしたか、どれ丈け科學を應用したるか、これも實に遺憾である。試に先づ厨を見よ、或は調理法を見よ、汚物排泄の方法を見よ。進歩の點は僅に水道、瓦斯、電氣位なものなり。

文明の度進むにつれて人間の生活は益忙しくなつて來る。遊び半分では行かぬ、働き半分でもゆかぬ。よく働き、よく遊ぶのが、其要を得たものである。

日本人の娛樂は、歐洲のそれに比して少いと思ふ。これは一面日本人が勤勉を現はすもの、やうにも考へられるけれども、其實は、不規則の爲めである。遊ぶ時間が造れぬからである。

日本の日曜は、部分的に實行されて居るのみである。一週に一日休むことは、贅澤では無い。七日間の用を六日の間にすませて、一日は遊ぶのだ、試に日本の商店を見給へ、朝早くから、夜晩くまで開いて、日曜も休まないものである。店員は終日働かね

ばならぬ。それに反して例へば獨逸の如き一定の時間、譬へば夜の八時には、揃つて
どの店も閉ぢてしまひ、日曜には、只或種の店のみ正午短時間店を開くのみ。日曜は
實に休養に當てられねばならぬ。

日本人が生活に費す時間の使用に於て、下手なることも、一週の中に一日を儲け得
ざる所以であらう。西洋人が僅か數分間でドシ〜と用事を片づけて行く處は、えら
いものだと思ふ。日本では要務と贅務とを混同して居る、數分間で全く片づく用事に
一時間を費して居る、これでは逆も一週間に一日は儲けられぬ。これでは逆も家庭で
讀書をしたりする暇がない。日本の婦人程讀書せぬ國民は無いと言ふ人もある。信じ
られても仕方が無い。實際讀書の時間など造り得ないのである。洗濯は毎日のやうに
せねばならぬ。用事には暇が要る。調理にも時間が中々かかる、縫ひものも舊い式で
やらねばならぬ。楽しく遊ぶ時間の出來て來ぬのは全く生活法の下手なためだと思は
る。斯くて婦人も男子も毎日の生活に忙殺されて居るのである。

僕は日本人が實際生活をもつと上手にやり、且改良を加ふると共に、日本人自己が
人種衛生及び人種改良等に心を注ぎ、在來の惡習慣をば率先して改めてほしいと思ふ。
例へば試に日本人の體格と姿勢を見給へ。家屋の不備と、衣服の缺典より來れる多く
の弊害を證明することが出来る。脚を曲げて坐するなど言ふことは、當然廢せらるべ
きことである。併しこれを廢するには、家屋構造の改良を斷行せねばならぬ。今日は
改良の時代である。進歩の時代である。實際生活を單簡に、經濟的に、衛生的に行ふ
時である。

日本の教育

故國からの通信に、ハーバート大學名譽總長エリオット博士は、日本觀光の途次、
米友協會に於て、日本の教育が、すべて規則づくめなるに、一驚を喫せりと述べたと
ある。蓋し尤のことなり。『規則づくめ』と云ふことは、『束縛』と云ふことなり。或は

『融通のきかぬ』と云ふことに解してもよからむ。

日本の教育が『つめ込主義』、『鑄型主義』、『丸呑主義』であることは、事實である。教育家も、學生も、此束縛の縄で結ばれて苦んで居るので、『教育の自由』と云ふやうなものは殆んど無い。日本の教育は、角なものも、圓いものも何でも一個の型に入れて育てると云ふ式である。人間を丸で人形でも造るかの如く、心得て居る我國の教育は、實に世界一品である。人間の本性を全く忘却されて居るのである。教育の進歩せざるはこのためである。

今回、東大の優等で卒業した某氏の如きは、隣國支那の革命に就いて、全く關知せざりしと傳へらる。學生の罪か、抑々又教育の罪か。大學生が、「ノート」の爲めに、全力を傾注せねば、其課程を全ふすることが出来ぬと云ふ有様は、寧ろ氣の毒ではあるまいか。

日本の大學生は、筆記をせねばならぬ労働者である。教師は蓄音器だと譬へた人も

ある。僞だと言譯しても通らぬ。

學生が教場内で、筆記の労働によりて疲勞することは止むを得ぬ。大學生は『勞れたる人』たるを免れぬ、勞れざらんとして勞れざるを得ぬ。苦しい教育の方法ではないか。

高等學府を出て来る人々は、社會の上流に立つて間接に、直接に、人を指導し、世を拓くべき人ではないか、力ある人であるべき筈である。健げな人であらねばならぬ。『疲れた人』で、この役目が十分に果されるであらうか。大學の課程を終へて、それが人間教育の全部と思へば、大間違である。故人は世界は大學校なりと云ふた、至言なり。何人も此大學校に入らねばならぬ、社會も、團體も、家庭も大學校の一つと見てよい、帝國大學は『疲れた人』を出し、此『疲れた人』は、更に世界の、或は社會の大學に入つて活動をせねばならぬ。骨の折れることである。實際骨を折つて居る。寧ろ骨を折られて居る。

時に天才とか云ふやうなものがあつても、日本の教育では、これを認められぬ。低能の児童が普通教育の上に、厄介である如く、天才と云ふ様な児童も、厄介視せられねばならぬ世の中だ、人物が無いと云つて、こぼして居る世の中に、非凡のものが其價を認められずに、厄介視せられて暗に葬らるゝは、何と滑稽ではなからうか。日本の教育は天才の存在を許さぬ。學問や、教育は、成るべく自由に、發達を謀るがよい。機械とは違ふ。縛つては手が出せぬでは無いか、足が動かぬではないか。そこに行く。獨逸の大學教育はえらいものだと思ふ。學問の絶對的自由を認めて居る。自由に勉強し、自由に講義と教授を選ぶことが出来る。日本の教育に比して、何と大きな進歩ではあるまいか、日本の教育は強迫である、獨逸の教育は自發的である。

大學生は、甲の大學より、乙に移り、丙にも、丁にも、思ふまゝに轉ずることが出来る、知見を廣くし、批判の力を養はせると云ふことに意を注げる當局の方針は、積極的で、これが教育の目的に適して居るのではなからうか。

獨逸の大學生は、日本の大學生に比べると、一見遊んで居るのかと思はれる。講義の際も、速記者のやうな勞働はせぬ。日本の學生のやうに疲れた状は見えず、大學を出てからの経路が日本と相反しては居らぬかと思ふ、日本では人間の一生は、大學生の一生と心懸けて居るやうに見える、教育の精神はこゝではあるまいか。

延びる手はごまでも延ばして置く方がよいでは無いか、悪いことでない限りは。束縛は、日本で只に教育の範圍に限られて居るのでは無い、これは喜ぶ現象だとは言へぬ、見給へ日本の庭園が如何に束縛的であるかを。延びれば切る、延びれば切る、おまけに、曲げられる、植物虐待である。そして日本人はこれを喜ぶのだ、これ程奇な國民はあるまい。

教育は、萬のものゝ起る源なり。束縛を脱せず、自由を求めざれば、何時までも日本人は『疲れたる人』として、『繩がけの人』として、立たざるべからず。日本の教育が大革明を要することは今日論を待たぬところである。

あの山越えて海越えて

日本人が天與の自然美に馴れて、自然を喜び、自然を愛し、自然に向つて感謝する心の乏しきは蓋し事實なるべし。日本は自然美に富める國なり、山も河も野も畑も、到る處に自然はその美はしき衣もて飾れるなり。歐洲を旅行して、日本が如何にも自然の神に恵まれたることをつくづく感ずるなり。例へば獨逸などに居れば一層此感を深くするなり。獨逸人が平凡の森を賞し、濁れる河に船を浮べて喜べるに比ぶれば、天與の自然美に對して感謝することを知らざる日本人は罰が當るべし。

日本の美は、自然に在り。而して獨逸の美は市都に横る、日本の市都が獨逸の都市に比すべくもあらざると一般、獨逸の自然を日本の自然に較ぶること能はざるは事實なり。然るに歐洲にては今や人工を假りて自然美を加へんことに努め、日本は之に反して自然美を破して平然たり。以ての外のことならずや。

歐人が旅行に興味を有せることは、逆も日本の比較ではなし。其結果遙々と日本まで觀光に来るなり。我等日本人はこれと同じく海を越へ、山を越へて歐洲の都會美を觀ざるべからず。泰西の人は、日本の風物を通じて日本人の性格を知らんとす。我等は歐洲の都會美を通じて泰西人を解せざるべからず。

在歐中の僕の友人、近頃、書を送りて曰く

君、僕はこれまで日本と云ふ井戸の蛙であつた。井戸の外の世界は知らなかつた。然るに一朝此井戸の外の世界に飛んで來て見て、驚いた、其結果、僕は不安となり、僕は苦惱するやうになつた。僕若し一生井戸の蛙として終りしならば、僕は寧ろ此苦しみから免れたのであつた。併し今日は已にこれを見た。これを僕の頭からとり去るわけには行かぬ。忘るるわけには行かぬ。僕は一個の日本臣民として、故國の爲めに、全身全力を盡して僕の不安と苦惱と戦はねばならぬ。君以て如何となす。果せる哉、友の叫びは、予の叫びと符を一にせるなり。『相見ての後の心にくらぶれ

ば昔は物を思はざりけり』

日本の文明が近者長足の進歩をなしつつあることは事實なり。然れども歐洲の文明は、遠き距離を置きて前方にあり。驅足にて追ふも之に追付事は容易の業にあらず。

古人は『百聞は一見に如かず』と教へたり、此語まことに至言なりと覺ゆ、『世界は大學校なり』、日本は正に世界の大學校より粹を學ばざるべからず、世界の大學校は、都市に於て其講演を聞き得べく、山にも河にも、平原にも偉大なるものを學び得ん。日本人の旅行は、今後海を越えて行はれざるべからず。時日と費用を有し、一定の智識ある人は須らく海越えて世界の文明を視察すべし。斯くして祖國の爲めに資すべきところ多きを期するは力あるものの當然の義務なり。

日本は戰勝の國なり。少くとも戰勝によりて名をなしたる國なり。戰勝の國は、平和の時代に於て、平和に勝てる國たらざるべからず。平和の光に輝く國ならざるべからず。然らずんば、旭日の東國は其實を失ふに至るべし。

海越へて歐洲に來る日本人は必ずや『昔は物を思はざりけり』の歎あるべし。これ然れども我等の爲めには、よき興奮の藥なり。我等はこれによりて一層努力の念を強くせざるべからず。

往け、あの海越えて山越えて、而して歐洲文明の因つて來るところを觀よ。日本の文明のまだく幼稚なるを悟るべし。

支那に於ける獨逸魂の發展

●獨逸が海外に自己の勢力を擴張せんと熱中しつつあることは、今日、誰でも知つて居る處で、商人と言はず、學者と言はず、獨逸人が諸種の事業に手を染めて猛進しつつあることは、中々スパラシきものである。東洋に對する獨逸の興味が益々増して來て、今はお隣の支那へ手を出すこと頻りである。日本と支那とは、睫眉の間に居りながら、あまり支那の外交に發展を見ないうちに、獨逸は、遠大の目的を提げて着々と事

業にかかりつつあるのである。根底深ければ、其築くところのものも従つて堅固なものとなることは、凡そ察することが出来る。

●見給へ、獨逸人が諸種の困難を侵しても、事業を貫徹し居ることを、今より凡そ十五年以前のことである。獨逸の二名の醫師が、上海で、獨逸病院を建立せん爲めに奔走し始めた。後八年、即ち千九百七年に、佛蘭西居留地の西方に病院となるべき敷地が定められて、其建築設計が造られた。これが抑も上海に於ける獨逸醫學校の母となつたのである。當時これに要する寄附七萬「マクル」は、諸種の方法によつて集められ、其事業を完成せしめたのである。

●上海醫學校は、既に三百餘人の學生を有し、これに要する一個年の支出額は、十九萬「ドルラ」に上つて居る。

●嘗に右の醫學校のみならず、獨逸工科學校が設けられて、下水、水道、病院の建築等に關し、新進科學の進歩を應用して、衛生上の大發展を試みんとして居るのである。

●更に下つて、今度は、傳道學校の數調べをやつて見ると、支那中にある傳道學校で、「アングロサクソン」人種の經營にかかるものが、最近の調査にあると、一萬七百三十三個ある。この生徒の總數は、二十三萬四千人にも達して居る、其中、獨逸人の設立にかかる學校が四百四十個、これに屬する生徒の數一萬千人。

●右の外に獨支高等學校あり、今は、三千人の學生を有すると言ふことである。

●獨逸人が、支那に興味を有する結果、右の如くにして學校を起し、自國の言語を教へ、更に進歩せる今日の科學を教授し、遠大の望を達するために、着々其進歩を進めつつあることは、明な事實で、先づ基礎を固くして、然る後外交手腕を揮はんとするのである。

●獨逸人は、ごちらかと言へば、概して共同の精神に富んで居る。外國の到る處、同國人の存するところには、共同の機關を設けて、研究と實際とを一致せしめることに勉めて居る。事業の上に著しき發展を見るのはこのためである。

●日本の爲政者には近視の輩が多い、研究の精神と、遠大の計を建つる點は、獨逸人を師とすべきであらう。

ゼヒジツシエー・シュワイツを觀る

ゼヒジツシエー、シュワイツは、ハルツ、トューリンゲンワルド等と並び稱せられて、獨逸人は素より、外國から來た人々が、好んでその絶景を賞する處である。獨逸人が^{ウンテンシヨールン}奇景と歎美する處は、果してどんなものかと、獨逸に來て、郊外の森や林を見る外に、山らしい山を見たことのない僕、偶好奇心を起して、ドレーズデン府に滯在中、友人を促して同地に足を運んだ。

ゼヒジツシエー、シュワイツは、エルベ河の兩側で、ビョーメンの界から、ビルナまでの間を稱するので、谷と岩とで、山が名高くなつて居る。これに尙ほベームシエー、シュワイツが聯絡して居るので、兩者を併せると、其長さ我國の九里半、廣さ七里半

に當る。

最大の谷は、エルプタールと稱し、周圍の小溪から流れて來る水は、何れもこのエルプタールに落ち合ふのである。一番深い處は、ゴットロイバのエルベ河に注ぐ處で、そこには、チルンスタインやグローセー、ウインテルベルヒ等の山があつて、これは單獨に突立して居るのである。

ゼヒジツシエー、シュワイツの紹介に努めた人は、ウイルヘルム、レーブレヒト、ギョツチンゲルと云ふ人で、千七百八十六年に、同氏がこの地の奇景を敘述し、大に世に歡迎せられたのに始まる。

此名所の特徴は、前にも述べた如く、溪と岩のためである。殊にその岩が、周圍のものから、全く離れて、將基の駒を立てた如く、或は全く長方形に凸立して居るのでそれが、彼方や此方に散在し、岩の層が明かに讀まれる。

岩質は美麗な硅石粒から成つて居つて、これは、粘土質と、石灰との粘着物で、固持

されて居るのである。岩層中には赭石を含有せる爲め、層が黄色になり、或は赤くなつて居る。又岩の破れた場所には、海狗、貝類、其他の動物の印章がありくゝと見える處がある。その他また粘土質の脆い部分では、海産物、海藻、海綿等の存するのを見ることが出来る。又其岩の中に碎け易い石炭をつめて居る穴があつたり、或は樹木の形を見出すことも出来る。

右の様な現象はどうして出来たかと言ふに、これは、古し海石として海中にあつたのが、粘着物の爲めに固く結合して其結果、かくなつたものに違ひない。

其古エルベは、ビョーメンの方から流れて来て、そして岩山を貫ぬき、其河床は益々深くなるに従ひ、水も深くなり、大氷塊の溶水は、リリエンスタインの方まで行つたものと見える。

セヒジッシャー、シュワイツの範圍には、彼方此方に、多數の柱石が屹立して、まるで人工的にこしらへたのかと思はるるやうである。

ラーテンの驛で下りて、エルベを小蒸汽船で渡り、ラーテンの町を通つて、道を左にごり、バスタイへ志した、バスタイ岩は、高さエルベより百九十五米突、海拔三百五米突、屹立した岩で、頂上には鐵柵が設けてあつて「ベンチ」も具えてある。

バスタイ岩の頂上は、風景を賞するに最も適當の處で眼下には、エルベ河が靜かに流れて、蒸汽船が往復して居るのを手にとるやうに見えるし、川を隔てては、ラーテンの村あり、この村を通じて走る汽車も晝中に收むることを得べく、遠くには、ポールンツタール、ホーンフタイン、シャンツェあり、手近には、バスタイ橋あり。長さ七十六米突、目が舞ふ程に高い。其他ラウシェ、タンネンベルヒ、ウインテルベルヒ、カイゼルクローネ、チルケルスタイン、クッペルスベルヒ等の名所が、散在して居るのを見ることが出来る。

此處には數軒の「ホテル」及び料理店があつて、自動車も此處まで通ふやうになつて居る。

僕等は此處で小憩の後、シュウエーヘンリヨツヘルを経て、アムゼルグルンド、アムゼルファルへ出たが、シュウエーヘンリヨツヘルへの道は岩石の溪間を下るのである。其岩の中にある樹木が、中々趣多く、これは實に日本的だと賞賛して下るうちに、岩穴に來た、體內くぐりとても言はるべきものであらふ。

アムゼルファルには、瀧の前に一軒の「ホテル」兼料理店があるので、そこで休み乍ら、瀧とは言へど僅か数滴の水が落ちて居るばかり、打ち續く干照のためたらふど話し合つて居る中に、店の娘が、只今瀧を御覽に入れますと云つて、側の鎖を曳くと、ザツと水が瀧をなして落ちて來たが、落水一過すれば、もとの通り。僅かな水を貯へて置いて、観客のために一時的瀧を演出するものと云ふことがわかつた。

獨逸内地で、名所、故跡を尋ねて、殊に便利を感じることは、ごんな山の上でも、溪

の底でもよく手が行き届いて居て、其道案内の如きも、極めて丁寧に示してあるし、詳細の案内書が、幾冊もあるから、實に便利である。大抵「ホテル」と料理店があるから、山の上でも宿ることが出来る。

ギョーテの故郷より

●フランクフルトは千古の大詩人、ギョーテが生れた土地である。足一度此地に運ぶ者は「ギョーテ・ハウス」を見ることを怠るべからず。梅毒の治療薬「サルファルサーン」も亦此地で發見せられたのである。フランクフルトはマイン河に添へる古い都である。商業市である。

●僕が此の地に着いたのは、恰も日曜日であつた。見物するに、都合が悪いので兎も角、「パラメン」公園にご足を運んだ。此公園は町外れに在れど電車にて行けば、直ぐに到着することが出来る。公園の中央には社交軒と呼ぶ大きな建物がある。こゝで午

後には奏樂會が催され、料理店も附屬して居る。全日顧客の用を便じやうといふ仕組なのだ。

●園内には、多數の熱帯地方産の樹木及び草花が各種の温室に培養せられ、日本の竹なども成育せるを見た。僕は、奏樂の終ると共に此所を出で、當地第一流と稱せらるゝ寄席に這入つた。此所には、上流の人も下流の人も來て居る。國民性を見るには、都合がよいからである。

●僕の入つたのは夕の八時であつたが、滿場人の山をなして居る。獨逸の寄居は、酒店の經營である故、顧客は各箇に列べられた圓卓を圍みながら例によつて麥酒を飲みつゝ見聞するのである。國民性氣質と言ふものが、よく發揮されて、僕等の目的には、甚だ都合が好い。

●「プログラム」は奏樂を主として其外に舞踏落し話輕業活動寫眞等もあつたが、何しろ陽氣な國民のことであるから、其さわざ方も一通りでない。遂には聽集が椅子の上

に立つて歌ふと言ふわけである。斯くて僕の用事は済んだので、十一時過ぎに宿舍に歸つた。

●翌日「ギョーテ・ハウス」を見た。これは市の中央に在つてギョーテの兩親が住んで居た家屋である。文豪ギョーテは此家の一室で呱呱の聲を擧げたのである。時は、千七百四十九年八月二十八日。ギョーテの令妹コルネリアも、此家で生れた。

●ギョーテが此家に住んだのは、青年時代、實に千七百四十九年より、千七百六十五年までの間であつた。ギョーテは後ワイマールに移つた。僕はワイマールで、ギョーテが夏期に住んだと言ふ森中の別莊を見、ギョーテ博物館を見、ギョーテの書齋及びギョーテが永眠したと云ふ寢室等をも見たことがあるから、一層の興味を持つて、この「ギョーテ・ハウス」を見物したのであつた。

●「ギョーテ・ハウス」は、今は己に古い建物となつて了つた。二階には應接室やら音楽室その他ギョーテの父の書齋兩親の寢室等もある。三階にはギョーテの書齋と寢室があ

る。幼少の時自ら遊び戯れたと云ふ人形芝居の玩具などがある。ギョーテの父は法律家であつたから、父の書齋には法律の書物が頗る多く保存されてある。

●大詩人ギョーテの名は、時と共に高く、廣くなつた。其結果ギョーテの故郷フランクフルトにも亦ギョーテ博物館を設くる必要が起つて、「ギョーテ・ハウス」の後に「ギョーテ・ムゼウム」が設けられた。これ實に千八百九十七年のことである。この博物館に收むるところ、繪畫、彫刻、手書等數千種、考古家の資料となるもの少くない。

獨逸國の出産數減少

●**出生率減少** 獨逸に於ける出生數の死亡數を超過する比例が年々減少しつゝあることは既に人の知る處で、當局者はこれを防ぐことに腐心して、少くとも其度を増させぬやうにせぬばならぬ佛蘭西の跡を追うてはならぬと心痛して居る。試みに獨逸に於ける最近の出生數及び出生の死亡數を超過する數を擧ぐれば次の如くである。(人口千

につきての比例)

年次	出生數	死亡數	出生の死亡數を超過する數	出生數
一九〇六	三四、一	一九、二	一四、九	三三、一
一九〇七	三三、二	一九、〇	一四、二	三二、二
一九〇八	三三、〇	一九、〇	一四、〇	三二、〇
一九〇九	三二、〇	一八、一	一三、九	三一、〇
一九一〇	三〇、七	一七、一	一三、六	二九、八
一九一一	二九、五	一八、二	一一、三	二八、六

表によれば死亡數も年々減少して居るけれども、出生の減少の割合の著るしいことがわかる。之には飲酒豫防、結核病豫防、婦人の職業に關する保護等に注意を要するが出生數減少の一原因は避妊である。經濟關係が主因となつて出生を避けるものが多くなつたのだと云ふので獨逸で近頃避妊防禦の議論が盛になつた。或論者は既に三人

の子供を有する家庭は教育費の扶助を爲すやうにしたらよいと稱へて居る。蓋し國家の負擔は、著るしく高額に上る。ところが更に困難なのは如何にして三人迄の子供を生ませるかに在る。第三人目の子供に對しては政府から扶助を受けるにしても、第二の子供の費用は、親が負擔せねばならぬ。

●各國の出産數 出産數の比例は如何。試みに千九百十年度に於ける出産數の人口一千に對する比例を擧ぐれば左の如くである。

各國	生産比例	各國	生産比例
露 西 亞	四三、九	ブルガリエン	四二、〇
ルーマニア	三九、二	セルビア	三八、五
埃 多 利	三二、六	ハンガリー	三五、七
伊 太 利	三三、三	スバニア	三三、一
ポルトガル	三二、三	獨 逸	二九、八

和 蘭	二八、六	丁 抹	二七、五
諾 威	二六、一	瑞 典	二一、七
大 英 國	二五、〇	瑞 西	二五、〇
白 耳 義	二三、六	佛 蘭 西	一九、六

●各國の死亡數

露 西 亞	二八、九	ルーマニア	二四、八
ブルガリア	二三、五	セルビア	二二、一
ハンガリー	二三、六	埃 多 利	三二、一
スバニア	二三、三	ポルトガル	一九、八
佛 蘭 西	一七、八	獨 逸	一六、二
白 耳 義	一五、二	瑞 西	一五、一
大 英 國	一四、〇	瑞 典	一四、〇

和	蘭	一三、六	諾	威	一三、五
デネマルク		一二、九			
ブルガリア		一八、五	セルビア		一六、四
和	蘭	一五、〇	露	西	亞
デネマルク		一四、六	ルーマニア		一四、四
獨	逸	一三、六	伊	太	利
ポルトガル		一二、七	諾	威	一二、六
ハンガリー		一二、一	埃	多	利
大	英	國	瑞	典	一〇、七
瑞	西	七、九	ス	バ	ニア
白	耳	義	佛	蘭	西
		八、六			一、八

更に進んで、其出産数が死亡数に超過する比例を見るに

以上の表で見る如く、出産と死亡数との比例は、國々によつて區々であるが「スラヴ」人種に屬するものは生産力が強いやうに思はれる、露西亞、セルビア、ルーマニアの如きは、出産が死亡の數を超過すること甚だ高くない。今より十數年前、獨逸國に於ける出産率が減少し初めた。當時多くの學者は、其原因を探り、其將來を慮りて、種々の論が行はれた、然も今日に至るまで、出産率減少の現象は、階段的に下つて來た。然し出産率の減少は獨逸國の専有では無く、文明國の通有であるが同時に除外例は勿論ある。最近十年間の事實に徴すればルーマニア、ポルトガル、アイルランド、支那、日本等の如きは其出産率が増加しつゝある。今其出産比例を表せば左の如くである。(人口千に對する比例)

獨	逸	一九〇〇	一九一〇	減少
埃	多	利	三三、五	四、八
		三六、八	三〇、七	六、一
		三七、三		

伊太利	三四、四	三二、九	一、五
スバニア	三四、六	三三、一	一、五
英國	二八、七	二五、一	三、六
諾威	三〇、八	二六、七	四、一
白耳義	三〇、一	二四、八	五、三
佛蘭西	二二、二	一九、七	二、五

即ち獨逸の出産率減少を最高とし、何れの國も其率は減少して居る。この原因は如何これは興味のある問題で次の數種を擧げることが出来る。貧困なる爲め經濟が膨脹した結果。婦人の職業が盛になり、婦人が男子の職業範圍を襲ふて就職するものが増つた。結婚も困難になつた（獨逸國の結婚統計率は、年々減少して居る）、よし結婚しても、生活の問題に追はれて、子女を生み、これを養育して居る時間がなくなつた。試みに女教師、女子商店員、女子大學生等の増加を男子の夫に照して見ても、其増

加率が著しく増して居ることは、事實である。

●私生兒増加 かく出産率の減少する傍ら私生兒の出産は年々増加して來た。獨逸に於ける最近數年の私生兒出産數を見るに、出産百中に比例は、次の如くである。

一九〇六	八、五	一九〇九	九、〇
一九〇七	八、七	一九一〇	九、一
一九〇八	八、九	一九一一	九、二

これは、社會的現象として免れ難き事實であらうが、從來私生兒に、餘り重き措かなかつたが、斯く毎年出産率が減少しては、國家の一大事である。やがて出産の數と死亡の數とが平均する時が到來するかも知れぬ、否なそれをも越して、死亡數が出産數の上に出るかも知れぬ、茲に於てか私生兒も、輕忽に觀過してはならぬ。私生兒を公費で保護すべしと説くものさへある。兎に角、今日世界の表に旭日の勢ひを示して居る獨逸人民が、其出産率が減少を見るに及んでは、少からず心痛するのも無理は

ない。

國民皆兵主義の獨逸

獨逸國民程軍隊に興味を持てる人種は恐らく世界に又と無いだらう。軍隊に熱情と尊敬を拂ふことも獨逸國民の外に出づる民はないであらう。従て軍人の跋扈は中々のものである。人若し獨逸に遊ばば必ずや正服の士官が嚴然として途上を歩み、若き女子どもが見とれつつある状を目撃するであらう。實際獨逸の青年士官は社交上にも花役者として立つこと少からず。舞踏會を見よ、演藝會を見よ、夜會を見よ、正服の青年士官が女人集中の焦點となり居ることを見ること稀ならず。青年士官を我夫に求むる娘どもの數は蓋し中々のものなるべし。成る程正服を着けたる勇姿は女ごもの一概に「立派だ」と言ひひそな風である。獨逸の士官は姿勢を優美ならしめん爲め女子の如く「コロセット」を用ゆと呼ぶ。驚くべし。

獨逸は、人も知る如く、國民皆兵の系統をとつて居る國である。此方法は獨逸が世界政策をとる上に賢明の制度であらう。國民と軍隊とは一つのものとなつて居るのである。

青年士官の持て方右に述べたる如くなれば、士官のうちには身を持ち崩すものあり。多數の女子を腐らせるものあり。結婚によりて巨萬の富を得んとするものあり。

獨逸も今は黄金結婚の流行日を追つて盛ならんとして居る。青年士官のうちには黄金附きの娘を得んとして運動するものあり。年若く世事にたけざると見ゆる士官輩なごの中にも此運動方法の巧みなるもの少からず。先づ持參金の額を探知せんことを謀るなり。西洋などでは、これを娘の親に問ふことも不自然とは見做されず。伯林などの士官には自ら一定の結婚相場あり。十數萬馬克の持參金なくては、士官の妻になり能はずと言ふ。その商賣的なる察すべきである。

獨逸の陸軍士官が斯く社會の歡迎を受くるは只に軍服を纏へると言ふ外に尙ほ有力

の理由あり。昔は獨逸の貴族社會より士官を出したのである。名將は武門若しくは門閥家より出でたのである。然れども獨逸は普佛戰爭以來陸軍の擴張著しきに達したる爲め逆も名門出の士官丈けにては一定の數を充す能はず、今日に於ては普通の階級より士官となれるもの極めて多しと言ふ。

獨逸士官の風俗は決して良好とは言へぬであらう。獨逸陸軍の優勝なることは世界に名高き事實なれども、士官が社會に與ふる惡影響は非常のものである。彼等の生活は決して素朴節儉なりと言ふべからず。借金の上座に座し苦悶せるものは蓋し少數では無い。持參金の多きを望むは右の如き理由あるに因る。

彼等は此外に種々の勝負事を好むなり。遊戲に勝負を賭けて僥倖を期するのである。黄金に戀々たること如何に強きかを察すべし。此點は英國の國民も中々のものなり、英國の國民はど勝負事の好きな國家は他に無いであらう。競馬の盛なるを見よ、競馬の發達は勝負事の盛なるにつれて起れる自然現象である。何は兎もあれ軍隊などにて

勝負事の盛に行はるるは喜ぶべき現象とは思へない。

獨逸は「ビール」の故郷である。飲酒の習慣は上下を擧げて固着して居るのである。何の事は無い「ビール」は水の代用として用ひらるのである。軍隊内に於て飲酒の爲めに一大弊害を醸しつつあることも直に合點の行くところである。

獨逸も西洋の他の國々と同じく男女の交際は自由である。試に日曜を見給へ。多數の兵士が誰も彼も、若き娘と手を組合して散歩せるに氣が附く。兵士の相手は主として女中である。日本人などの目には餘程變つて見ゆるなり。然し西洋では當然のことなり、英國に行きても同じことなり。佛國に行きても別を見ず。

獨逸陸軍の中樞は參謀本部である。茲には陸軍の各部より代表者として選ばれたる人の事務を見るあり。任期は一定せず。力量あるものは永く止りて手腕を示し得るのである。進取の國民にして世界政策をとれる事なれば陸軍の進歩など著しきものである。或は各國の陸軍制度組織を研究し、善きものは之を執り、内にありては陸軍召集

輸送等に最便の方法を講じ、軍用機關の敏活なる運用を期するなど中々見るべきものありと言ふ。皇帝は參謀本部に命を下す事が出来る、皇帝の命を受けて參謀本部にて調査し、成就したるもの少ならずと言ふことである。

大元帥たる皇帝！ ナポレオン魂の塊と稱せらるる皇帝が陸軍及び海軍の進歩に關し、精力を擧げて心を須ひ給ふことは既に人の知る處、陸軍の士官にして招かれて皇城内の宴會に列するもの少からず、皇帝は幾千人の士官の姓名をよく暗記し給へりと言ふことである。天下何れの日か獨逸軍隊の優勝を世界に誇り得べしと。皇帝は實に此日の到るを俟ち給へることであらう。

慈善事業とハムブルヒ

(上)

「ハムブルヒツ兒」が、慈善事業のために巨萬の財を投じて吝しまざるは實に感すべ

し。慈善事業は只爲政者の行ふまゝに放任するを以て足りんとすべからず、民間に慈善の心に満ちし人ありて公立のものと共に、此等の事業を發展せしめざるべからず。予が今回數週の滞在を利し公私の設備を窺ふ所以のものは、獨逸國に於て如何なる方法によりて、其慈善の目的を果しつゝあるや、如何なる組織と設備とを以て行はれつゝありやの一斑を見る事は、他山の石、以て我が玉を磨くに足らんことを思ひてなり。

ハムブルヒも獨逸に於ける他の都市に劣らず、慈善事業をよく發達せしめたり。從つて其公立たると、私立たるとを問はず、よく其種類に従つて、事業の分類を施されたることなり。不良兒童收容所、低能兒童養成所、不良女子養成所、感化院、養老院、孤兒院等數へ來れば、其種類極めて多し。予は予の見たる二三につき讀者に報せん。

● シュローデルスチフト 「シュローデル、スチフト」に收容せらるゝものは、何れも六十五歳以上の老人にして一箇年六百「マルク」の收入を有する人に限られ即ち無賃にて住室を得、各人は此處にて自炊し得る様に設備せられたり。建物は大なる煉瓦造りに

思はしむ、表門を入りて遙に進めば、正面に事務館あり、此の事務館に直角に、大三列をなせる建物あり、中央は左右の男女部の中隔をなし、こゝに炊事場あり、「パン」製造室あり（こゝにて他の慈善事業部の分をも造り、大自動車にて運搬せらるゝなり）後方には、机類製造館、木工館、靴部、金物細工館等あり、よく執業に堪へ得るものは、此處にて従業するなり、普通收容館の外に、病室あり、解剖室あり教會堂あり、此養育院に收容せらるゝ處の人々は單に貧困にして生活し能はざる老者のみならず、收容の額少きためよく生活の道を講じ能はざるもの、收容の額は相當なるも放逸にして家族の保護を顧みざるもの等なり、其の他養育院は、支院として郊外に大建築物と大農園とを有せり。

●フアルムゼン養育院支院

これなり、予は偶院長の厚意により院長夫妻と共に、自動車を驅りて、郊外數里の處にある同支院を訪問し、同氏の指導によりて、此支院の一斑を知ることを得たり。養育院支院はフアルムゼンと稱する村落に在り、目下七八

百人の男女の老人收容せらる。建物は何れも煉瓦石造にて、各個散在式に設けらる、「パフィリオン式」なり、此支院はすべて新式に設備せられ其機械館の如き極めて廣大なる装置を有せり。洗濯館の如きも、大なる一箇の建物にして洗ふ處より、乾かす處に至るまで、悉く機械を用ひたり。農園は極めて廣漠たるものにして見渡し切れぬ程の大原野を有す、牧畜、果樹栽培、野菜、穀類、草花何れも立派に培養せらるゝを見る、牧畜の如きは極めて大なる仕掛にて牛馬豚羊等數百専門家指導の下に養はる。其他作業館は、木工、石胡桃の皮を剥ぐ事、繩ほごき鍛冶等の各部に分たる。浴場の如きも其設備よく行届き、灌注法によれる装置と、別に湯槽装置とに分ち其の他病者用として電気燈浴の如きものまで設けらる。厨の構造も此種の事業には重要の一たるが故に清潔と迅速とを兼ねて便利に構成せらる、特に喜ぶべきことは收容者の食事の如き醫家の榮養品各種の含有量分析表に従ひ、蛋白含水炭素脂肪等の含量を一定して調理せらるることこれなり。病室及び寢室も、整然として清潔に設備せられ、何事もよく行届け

るには感すべし。予は我國の慈善事業に關して知る處甚だ多からずと雖も、諸種の點に改良を要せらるべきもの少からざるを信す。右の外ハムブルヒに於ける宗教上の慈善事業の數は、約六十を過ぐ、其目的とする處は、或は貧民兒童を保護し、或は基督降誕祭の時に貧者に贈物をなす如き、或は貧者、病者の保護、或は虛弱兒、恢復期にある兒童、患兒等の保護、一定の業務を與へること、食料品の給與、或は進んで風俗習慣に關して教育する如き、其種類多岐に涉ると雖も、要するに貧者、病者等を保護するの手段に出づることは言ふまでも無し。其の外に個人にて經營せられつゝあるもの數種あり。

更に進んで、其慈善事業の各性質により分類すれば、左の如し。

●兒童及び少年保護 哺乳保護は哺乳に牛乳を與へて養育をなすを目的とし、母親の就職を易からしむるなり。小學校前の兒童保護は、善良の食事を與へて、遊戯、唱歌、體操、談話等を教へて、親の代りに兒童を養育するなり。小學校生徒の保護これは、

放課後、遊戯、唱歌、讀書、書畫等を教へ、傍ら兒童の精神教育を施し、或は午餐を與へる處もあり。兒童の爲に衣食及び贈物を與ふる團體も其數多し、即ち學校兒童、小學校卒業後の少年等に衣服若しくは、衣服に必要な品物を贈り、一方には亦貧民の兒童に、食料品を與へ、食事をさせること、基督降誕祭の時、贈物をなす如きこれなり。兒童の健康を保護する爲めに、學校の休暇中、兒童を一定の健康地へ連れ行きて、世話をするなり、滞在するものあり、日通ひするものあり、其他別に兒童收容所の設けられたる處もあり。教育に關しては、或は教育資金を與へ、或は別に貧民の爲めに教育所を設け、或は放課後又は學校卒業後種々の課業を授けて、實際生活に必要な智識を與へ又は商業、工業等に關する教育も施さるゝなり。男女によりて其教育を異にせるは勿論なり。感化教育に關する設備もよく行届けり、即ち、不良兒童の教育、放浪兒童の教育、風俗を亂す男女兒童の教育、無職業者、無住居者等の教育これなり。

●成人及び家族保護 成人及び家族を保護する慈善事業の種類は一ならず、或は養育

院あり、或は一定の人々に限り金員を授與するあり、住居の爲に設備せられたる事業も甚だ多し、例へば無賃又は安價にて住宅を貸し、或は永住者の爲に或は一時性住者の爲に或は教育ある人の爲めに或は水夫の爲に或は寡婦の爲に或は老者の爲に或は婦人の爲に或はこれを職業に分ち、或は住居の外に食事をも附與する等、其他衣服、食事、贈物等を貧者の爲に用意せる團體も極めて多し。

右の外に健康保護、病氣恢復期にある人を保護するの事業も大に發達せり。

●病者及び産褥婦保護　これには災害保護、病者の運搬、私立病院、貧民病者保護、病者給金、病中營養品給與、病院看護等ある外、別に特種の疾病に對して設備せられしものあり。例へば酒毒病、眼病、肺結核等の如し。産褥婦は、これを其個人の家庭にて保護すると、他の産院にて保護するとの別あり。

●不具又は薄弱者の保護　これは言語の發達不十分なる兒童保護、成人の不具者保護、病身者保護、盲人保護、啞者保護、低能兒、白痴、癲癇者保護、精神病者保護等なり、廣大

にして整然たる設備少からず。

●他所人或は他國人保護　ハムブルヒ市の外の獨逸人及び他國人の爲に、就職の世話、相談、給金其他の扶助をなすなり。

散漫なる記事を以てして、これを詳細に述ぶることの不可能なるは申すまでもなし、然れども、人若しハムブルヒに於ける公私の慈善事業組合が統一され、此組合に屬するもの、數年前の調査によりて八百二十餘箇、これに支部、出張所等の如きものを合すれば優に千の數を上るにあることを知り、其種類に應じて各方面の人々を救ひ、扶くる方法を講じて、止むことなきを思へば、誰か其設備の整へるを羨ましと思はざらん。誰か其事業の爲に興味を懷かざらん。

科學的精神

最近世界科學の焦點は、蓋し獨逸であらう。成る程其故郷丈けあつて、獨逸に往つ

て見ると獨逸人の科學的なことが目に着く、男子のみではない。女性に於ても、はたまた小兒に就て見てもそれがよく解る。これは獨り獨逸ばかりでない。

歐羅巴を旅行したるものは必ず歐人の科學的知識に富めるを實驗する事が出来る。先づ旅行するとし給へ。案内記がある。獨逸等では其案内記の完全せること驚く計りである。そして其記載が極めて科學的である。近頃僕の手に遊覽地案内と言ふ一冊の邦文書が舞ひ込んだ。鐵道院御編纂と銘が打つてある。開いて見た。驚いた——其杜撰なことに——鐵道院の御編纂ともあらうものがあまりにひどい。何でも美文の資料から抜いた様な句が多く、句の裝飾に骨を折られた丈、旅行者に與ふべき智識の記載が缺けて居る。此種の書物を見ると、日本人が書を編むに方つても科學的の考のないことが解る。先づ獨逸に例をとる。多數の旅行案内をとつて其内容を驗して見給へ。其記載の科學的なることは驚かる程である。一寸富士山の條下を日本の遊覽地案内中に探して見る。三つか四つ程歌が載せてある。衝天直立一萬二千三百七十尺。これ

位が富士其ものの説明である。西洋の人なら逆もこれ丈では満足せない。先年獨逸から某と言ふ有名な博士がやつて來て弟子なる日本の——有名な——博士に宮島の歴史を一寸訊ねた。博士の宮島に關する智識は殆んど答へる程のものがなかつた。思はぬ不覺を得て俄に案内記を読み、鎌倉を案内する時には、前夜案内記を読み準備して再び耻をとらぬやうに力めた。そうして一夜漬の智識で大に胡魔をまかんと、愈實行にかかると、『君は昨晚案内記を読んだな』と先方から見た程確かにつき込まれて二の句が出なかつたと言ふ話あり。建築物を記載するに方つて必要なものは建築の年代、費用、建築式、建築者等の事柄である。單簡に書いても濟む。下らぬ歌など案内記にはそんなに緊要で無い。日本には外國人用の案内記ありと言ふ、どんなものか日本へ歸つたら一度見たいと思ふ。

僕は既に長いこと歐羅巴の天地に逍遙して居る。成る程長く居る中には自然と悪いことも目に着く。學んでならぬことも耳にする。が併し日本人が學ばねばならぬこと

が非常に多くある。日本人は自ら稱して戦勝の國民と言ふ。大國民になつたと言ふ。日本人は果して大國民の性を有して居るであらうか。實に心細い。日本人が大國民となるには世界を知る必要がある。日本人の普通教育にも大きな缺典が有る。世界に關する智識の缺けて居ることなどは夥しいものである。

日本人は實際今日非常な速度で進歩をしなければ歐人の歩調につく事は出来ない。歐人は科學を實際に應用せんことを力める。日本の家屋内の生活等を見ても如何に科學の應用が遅々たるかを知ることが出来る。僅かに水道、電氣、瓦斯位なものである。獨逸が近來盛に興つたのもつまり科學が進歩したからである。試に獨逸商人などを見給へ。其科學的思想に富んで居ることは我國の商人などに比して大したものである。僕は多數の獨逸商人に親しく接するの機を得て道がに世界に雄飛せんとする國民は商人と雖も大したものだと悟つた。

日本には國字と言ふ厄介者がある。併しそれにしても國民全般がもつと科學的にな

らねば日本の將來は悲しむべきものだと思ふ。

六道の辻に立てる日本

ドクトル、ウオン、マツケー男爵は最近「六道の辻に立てる日本」と題する長論文をミュンヘンの一新聞に於て公にした。其要旨丈け抜き書きして見やう。他山の石我が玉を磨くに足るかも知れぬ。

山本内閣は海軍事件の致命傷にて遂に落城の止むなきに到つた。大隈伯が後釜に据つた。伯は同志會から加藤、大浦及び若槻を抜用した。同志會の議員は政友會の二百一人に對して僅に九十一人であるから伯を保護せる同志會の勢力も凡そ察せらるる。犬養氏が國民黨を率ゐて居るけれども其力は大したものでは無い。同志會は創立者桂氏が死後、種々もめ事が出来た寄合の會である。此同志會が其目的を貫徹し得るや否やは今後の見物である。一體日本の議會は今日迄は幻の陰陽體の形であつた。日本と

言ふ國は國民の日本にあらずして皇帝の日本である。華族輩の勢力下に支配さるる日本である。政黨と云ふものがあつて議會に席を占めては居るもののほんの俱樂部の看板のやうなものである。

國民の教育は程度の低いもので議會政事の何物たるかを了解するに到らない。勿論社會的原則及び理想と云ふやうなものに就きては全く考がゼロである。歐羅巴の政事國は右の原則に基いて個人が要素となつて社會的團體が成立して居るのである。個人の『自由』及び『權利』と云ふものが日本では、家族親族等の關係と連絡して居て其團體が皇帝と相結びて愛國強制的國家を造つて居るのである。

神道は右の系統の道德的基礎となつて居て愛國の精神を鼓舞することを勉めては居るが、世界的人類若しくは人類の感情に關し反對説を稱へた日にはこれを看破する程の要素は極めて貧弱なものである。日本の華族と官吏が模擬的議會を建てて、今日世界の一等國の列に入り、一方には歐羅巴の社會黨的思想を豫防し得たることは疑なき

ところである。併し右の如き政事制度が今日既に困難を生じつつあることは事實である。此點に就ては曩に故人となつた政事家桂が既に注目して居た。即ち氏は時代の要求を領解して居た。其結果立憲同志會を創立した。併し此種の改善的事業の進歩と云ふものは懸河の勢で進むものではない。これに一定の時間が要する。日本人の精神が各種の方面に於て腐敗せることは近頃珍らしいことでは無い。一寸過去を顧ると解かる。千九百八年から九年へかけて日糖會社事件、これに今度の海軍事件。

日本の議會創立以來、初めて檜舞臺とも稱せらるべき、同志會に依れる政府が模範的政事を行はんとすることである。從來はホンの臨機應變で政事風が吹くにまかせて西へ行つたり東へ行つたりして居たのである。國防上の關係より陸海軍の擴張が主要問題の一となつて居る。處が國民側では其費用は一定程度に限れと云ふ。其外に租税の削減、社會的窮狀の調和等を要求して居るのである。

大隈伯は大學總長で博愛の人であるにより恐らく國民の満足をさせるやうに政事を

とることを勉めるであらう。

獨逸の野獸

獨逸人は、何でも歟でも研究することが好きである。近頃リョーニヒと言ふ教授が、獨逸國に於ける野獸の數を研究して、これを報告した。獨逸國が現今有する野獸的財產は、凡そ千九百萬頭に上ると言ふことである。其品わけをして見ると次の如くである。

鹿	屬	一二八〇〇〇
小鹿の一種		七八〇〇〇
野	猪	五九五〇〇
牝	鹿	一三二六五〇〇
兔		八四二三〇〇〇

雉子 七三五〇〇〇

レープフューネル 八〇一八〇〇〇

斯道専門家の研究によると、獨逸國內の野獸の數は、近來大に繁殖したと云ふことである。例へば雉子の數は、最近二十五年間に、四倍になつた、斯くて禽獸の總計は、千百六十九萬五千匹と註せられ、其價額二千六百二十七萬四千「マクル」に上ると云ふことである。其中最も好んで食せらるゝものは兔で、一箇年中に獲らるゝ兔の數は五百六十一萬五千頭、此價一千四百三萬八千「マクル」、其外に鹿の類も多數に得らるゝ、一箇年間に獲らるゝ禽獸の總目方は實に二千九百萬「キログラム」に及ぶと云ふ。これを人口の頭分けにして見ると、一人に就き〇、四五「キログラム」宛となる。

撰職の惱み

『パンの種』『パンの種』と西洋の國民は叫ぶ。歐洲は『パンの種』を追へる人の競争場

である。之れを日本語に譯して『飯の種』と言ふ。日本にも『飯の種』を追ふもの、數類りに多からんとす。

西洋の各國には概して女子の數男子よりも多し、男子の中にも結婚をせぬ人多し。獨身の女子が多くできるのは自然の理である。結婚をなし難き主な理由は『パン種』の十分ならざるにあり。『パン種』の十分ならざるは、職業の得難きに因するのである。職業は得らるべし、割の好い職業を得ることは非常に困難なり。職業の撰擇に第一番目の條件となるものは給金である。『パンの價』の高く成り行く結果、『パンの種』の多きを望む。『職業苦』の起る所以である。歐洲には無職業者多し、日本にては無職業者など、言へば有福者の代名詞とも見らるゝ風あり。西洋は然らず。西洋の無職業者は生れつきの無職業者にあらず、有職より無職に轉じたのである。『有る』より『無し』に轉じたのである。退化である。即ち『失職』である。見給へ英京の倫敦だけでも幾百萬の失職者ありと言ふ。失職者自己の悩みは言ふまでもなく社會の一大負擔である。國

家の大重荷である。國家自己が面倒を見ねばならぬ。黄金の光り輝く英國でも、暗黒の闇は中々濃厚である。

『撰職の悩み』など、言ふことは歐洲では既に過去の聲となり了らんとしつゝある。今は『どうして職を得るか』と言ふことが緊急の問題である。職業網の切れた日は、『パン種』の盡くる日である。『死ぬる日』である。油断も隙もあつたものにあらず。『パン種』の調達は日本にも日一日と急を告げて來るであらう。『撰職の悩み』が『求職の悩み』に移り、これが更に『在職の悩み』に進み行くであらう。『在職の悩み』は一言すると『如何にすれば現在の職より追放せられざる歟』の苦しみである。文明は結局少數の力あるものを喜ばせ他の多勢の凡々たるものを苦しめるものである。一面より見れば『文明は黄金喰ふ蟲』である。

日本にも飯喰ふ者の數が盛に増加しつゝある。國家と言ふ立場から言つても『飯の種』を増加する要がある。外國へ『飯の種』を取りに行くとは排日運動をやらるゝ。日本

の國家は如何にして將來の日本國民に『飯の種』を興へんとせるか。今日ですら大分『飯の種』に困しむ人が増して來た。これは國民の生活に關する問題である。直接國家問題と見做さるべきものである。日本にも『飯の種』を得る爲めに苦しんで居るものが段々増して行く。政府なども大極に目を着けて此緊要な問題を研究せぬと、將來國家の存亡など、言ふ問題を惹き起す破目に陥らねばならぬかも知れぬ。有識の士に三省を求むる所以である。

和製頑固一天張

西洋に居る日本人のうちにも『頑固一天張』の人がある。其例を擧ぐれば、獨逸などで日本字で手紙を書きてこれを其儘其國の人に送るものあり。其理由に曰く、『獨逸人は自ら獨逸語を書く、我は日本人なり。日本字を書きて他人に送る。當然なり』と。日本字の讀めぬ先方でも何の事やら解らず。迷惑の甚だしきは言ふまでもなく、その

用向が果せぬなり。『頑固一天張』もこゝまで來れば滑稽である。『郷に入つて郷に従ふ』ことは或る程度まで必然なり。日本には亂髮破袴、自ら東洋風の豪傑なりなど、喜び居る人あり。西洋にては勿論コンナ理屈は通らぬなり。人前に出る折には顔を洗ひ髪を梳り、容姿を整へて然る後人に接するのである。男子の懷中には必ず小形の鏡あり。浴室、寢室、便室、曰く彼處、曰く此處、鏡のあらざるはなし。街頭の辻便所の出口にも、『用事をすましたる後は姿を整へよ』と示してある。

西洋に行つて日本の習慣を其まゝに用ひんとするは困難なり。これを人に強ゆるが如きは一層困難なり。人は無禮なりと見做すなり。日本人に西洋の惡習を學べとは決して言はず。日本人のうちに夜着のまゝにて午食をとり、午後の來客にも其儘にて接するものなご少からず。日本人を専門の如くにして營業をなせる西洋人の下宿に居る人なごに此類多し。西洋の習慣より見て非常に不愉快なり。斯かる些事にて日本人は禮式を知らぬ國民だなど、西洋人に思はせることあり。日本人は又「キモノ」などを着

たる場合には足や股を出すことを何とも思はず、航海などの時には一段とよくこの習慣が發展せらるゝ。裕衣ゆかたの儘で股などを出しながら、西洋の婦人などの前にも決してかまわぬ人あり。西洋の人は婦人の前にて決して斯かることをせず。西洋の習慣より見れば「野蠻」ワイルドと思はるゝなり。西洋などに多年居て、この位の事は百も二百も承知の筈の堂々たる人が尙ほ斯の如し。而して日本人は言ふ。女の前で股を出すのが何故に悪しきや。これは日本の習慣なり。若しそれが悪いとならば、西洋婦人の夜會服などを見よ、後ろは首より背の中間まで、前は乳房の上まで皮膚を丸出しにす。それこそ野蠻の風習にあらずやと。

日本の風習も、西洋の風習もその因つて來る所を見れば自ら釋然たるものあり。西洋の婦人は靴を用ゆ。これには靴下を要す。西洋の婦人は馬に乗る、橋に乗る。階段を昇降す。茲に於て靴下は長きを便利とす。西洋にては婦人に腰より下のことを言ふことを大の禁物とす。「便所は何處ですか」など、男は女に尋ねざるを普通とす。其結

果肉體美を愛する西洋でも腰から下の皮膚を決して現はさず。其のかはりに上の方の皮膚を他人の目にかけるなり。

日本人は坐る習慣を有する國民である。長い靴下や、厚いズボン下を着けて居ては、坐るのに具合がわるい、その上に家屋が西洋のやうに恐ろしく階段的でない。春から秋の終までは氣候も温である結果裾の方を無闇に厚くする必要もない。それに「キモノ」と言ふものが始終一定の形を持つて居る。あれを西洋のやうに乳房まで出るやうに仕立て、帯などをべめて見ると、一寸「お化け」となるであらう。

勿論西洋にだつて悪い習慣は中々多くあるが、能くその因つて來る所を察せばその習慣の保存して居る理由が明瞭になつて來る。勿論斯んな悪習慣を見習ふ要はないが、「頑固一天張」を通じて居ると、西洋のよい事も中々目に見えぬ。こんな人に限つて西洋に居ながら西洋を知らず、寶の山にて寶の在所を發見し能はず。西洋にて「懷郷病」ノスタルジアを味ふもの此類の人に多し。

善を善とし、悪を悪とし、學ぶべきと、學ぶべからざることを知り、利害得失の因る處を察すれば初めて西洋に行きし甲斐もあるなり。西洋に行つて西洋の特色を學び能はずば、勞して功無しと言ふべきではないか。

肉食の國に精進料理の繁昌

事窮まれば又元の道に戻る。食肉なくては夜の明けぬ西洋に精進料理店の多數に存在せることは日本人などには一寸可笑しく見ゆる。獨逸などではどの町へ行つても精進料理店がある。大きな町には多數に存在して居る。知名の店は終日満員と言ふ有様である。此のうちには勿論、偶精進料理を食ふ人がある。然るに面白いことには、精進主義信者が非常に多いと言ふことである。此信者は終日肉を用ひない。其理由は肉食よりも菜食の方が健康を保つに利益があると信ずるからである。

植物食主義を標榜して發行せらるる新聞、雜誌及び書籍の數も獨逸などでは中々あ

る。精進會など言ふものもあつて幾萬の會員を有して居ると言ふことである。彼等は日本の坊様のやうに肉を喰ひたいけれども人に見られて何かと噂をされるのが嫌である、それだから魚屋が裏口からソツと出入をしようと云ふのに比べては大に趣が違つて居る。精進主義は彼等の信條である。外から來たのではない。内から來たのである。人が見て居やうが、居るまいが、そんな事は一向無頓着である。健康に有利だから精進主義を守るのだと言ふ。彼等の信條は非常に固いものである。そして他人をも同信者に引き入れんとして居る。

僕はもの好きに彼所此所に行く度毎に精進主義の信者仲間に混じて西洋の精進料理なるものを味つた。成る程種々のものが出来る。日本料理などと名けらるるものが中である。素より名ばかりで本國のものに比べ得られぬことは言ふまでも無い。

精進料理は一面に肉食よりは安くて上る利益あり。獨逸などで精進料理の増すことは、此事柄も理由の一つであるかも知れぬ。

一體西洋人は變化を好む國民である。流行の様様を見れば直ぐに解る。何でも變つたものを流行と稱して用ゆる習慣あり。試みに婦人界の流行などを見給へ。朝改暮變である。西洋丈けでは流行の種が切れるので、支那や日本のものなどをまねて流行の種を造る。

日本人は裾を割つて歩むと言つて笑ふ西洋の婦人が、どうです、近頃は、皮膚が透して見える靴下を穿ち、衣服の裾を割つて居る處など一寸矛盾です。

西洋人は言ふ。日本人は米のみを喰^{ライス}て生活して居る國民だと。『米のみ』とは面白い見方である。其人々が近頃日本人をまねて菜肉をするやうになつた。これがどうやら一部分の流行と見える。西洋に於ける精進料理店の數の多きことは逆も日本などの比ではない。其筈だ日本には精進料理店などと看板を掛けて居る店は實に稀にしか見出し得ない。肉食の西洋で精進料理店の盛なるを見ては、一寸面白い現象だと思はれる。寒國の民が温地の民に比して多くの肉食を要することは、生理上自然の要求である。

西洋の菜食信者の仲間には『珍らしいもの喰ひ』の輩中が多くあるかも知れぬ。

僕在獨中、胃を損し精進料理店に日參した事がある。いくら『米のみ喰ふ國民』と噂さるる日本人でも、胃が順調に赴くに從ひ、精進料理丈けでは最早堪へられなくなつた。それ以來精進神社へ參詣は廢してしまつた。信者などになる資格なきことは申すまでも無い。

日本の如き温暖の國で、西洋人の程度に肉食をすれば屹度身體に異常を起すことはあらう。矢張り中庸主義がよいであらう。

海外獨逸魂

獨逸人は世界征服主義を標榜して立てる國民である。全世界の表に獨逸の國旗を翻さんと企てて居る。商人も、學者も、政治家も、此主義の爲めに立つて居る。見給へ世界に獨逸人の足跡を有せざる所は無いであらう。例へば獨逸商人を見よ、彼等は國民

一般に有する進取の氣象に富み、世界の商業界に雄飛せんとして居る。最近二十餘年間の獨逸商工業の發展は實に著しいものである。

彼等は如何にして獨逸魂を海外に發展せんとせるか、世界の何れに何をなしつつあるや、少時之を研究して見たいと思ふ。

現今亞米利加合衆國に在る獨逸人は非常に多い。若し亞米利加で生れた獨逸人の子孫をも合算すると幾千萬にも上ると言ふことである。併しかゝるものは、殆んど亞米利加化して居て逆も眞の獨逸人とは見做すわけには行かない。

獨逸人が海外在住地の風俗習慣に馴れて、容易に同化し易き性質を有することは事實である。この特長が獨逸人が他國で發展する重要な要素かも知れぬ。一人の獨逸人が亞米利加に移住するとする。次で亞米利加人と結婚をする、出來た子供は、亞米利加の學校に通はせる。獨逸語は話しても、英語程には行かぬ。獨逸國に關する智識は素より淺い、獨逸國に對する愛國の念が起つても、大したものではない、其次の代には、

全く獨逸國と關係が無くなつてしまふ。

右の關係は獨り合衆國に於ける獨逸人のみならず、英、佛其他の諸國に於ても同様である。

獨逸人が移住地で同國人よりなる共同事業の設備と整頓に關する伎倆の擢んでたることは、既に人の知る處である。例へば合衆國に於ける獨逸人の事業を見ても解る、音樂、美術、工藝、協同的團體、教會及び學校制度の如き、他國からの移住民は、此等の點に於て獨逸人に及ばぬこと遠しと云ふことである。獨逸人は何處へ行つても直に此系統を踏んで獨逸發展の策を講ずるのである。これが確實で、その發達の早いことも事實である。

千八百九十九年に、フィラデルヒアで、獨逸亞米利加協會が組織され、千九百一年には獨逸亞米利加國際協會が創立され、主として外交上の問題を取扱つて來た。これには獨逸人の組織せる諸種の會も加盟し、其會員數は二百萬に上ると言ふことである。

カナダに於ける獨逸人は、大した勢力を有して居る、また大に歡迎されて居ると言ふことで、今日は五十萬の獨逸人を數ふると言ふ、獨逸人に對する政府の保護も中々手厚いと言ふことである。然るに不幸にも獨逸小學校が不完全な爲め、獨逸人の子女は整頓した英國學校に通はされるので、またこれが獨逸魂を失ふ種となると言つて本國では大層苦に病んで居るものがある。

濠洲には、現今十萬の獨逸人あり、クイーンズランドに在るもの三萬八千。南濠洲に在るもの三萬、多くは葡萄の培養に従事して居るのである。

南亞非利加は、獨逸人移植地として、最も古い歴史を有して居る、既に十七世紀の後半に獨逸人は、南亞非利加に移住を始めた。併し當時の移住民は、多くは農夫、勞働者等にして、其勢力も極めて微少であつたが、千八百六十年頃には、盛に移住し初めた。現今は、三萬三千人の獨逸人が居るのである。

英領印度には、約千七百人程の獨逸人が居る。主なものは商人である。

埃及に於ける獨逸人の勢力は、商業で千九百二年には、六千四百萬「マルク」の輸出が千九百十一年には一億四千五百五十萬「マルク」に上つたのを見ても、其進歩の程度が察せられる。千八百九十七年度の調査によると同地の在住獨逸人は、約千三百人、獨逸語を用ゆる國民、例へば瑞西、埃多利人等を合併すると今日は、埃及に少くとも一萬二千人を算すると言ふ。バルカン半島でも例の「バルカン戦争」に會して、獨逸武器の精良を以て大に名を擧げた。

南亞米利加に於ける商業權は、英佛人の手に支配されて居たが、近頃になつて獨逸商人が此中に割込をして、殊に工業の方面で發展を致して來た。

メキシコにても、獨逸商人は發展を致し、主要の大商店は、獨逸人の手に支配されて居ると云ふ。此國に於ける獨逸人の數は、約四千人、商人の主なるものは、漢堡兒だと稱せられて居る。ここでは、獨逸語新聞が發行される。獨逸銀行がある。獨逸學校、諸種の團體、俱樂部等あり。主都メキシコの外、地方に於て、農業に従事せる獨

逸人も少からず、其他、アルゼンチン、ブラジル等に於ても、獨人の發展著しく、アルゼンチンには、約十萬の獨逸人ありと云ふことである。初めは農業に従事せるもの多かりしが、次第に商業、工業等の領域に手を出し、現今に於ては、獨逸の學術が勢力を有するやうになつた。從て獨逸人にして、大學、高等學校に教鞭を執れるものが多い、學制も獨逸のそれに慣つて行はれて居るのである。

日本に於ても獨逸人は、商業の方面に大に手腕を揮つて居る。殊に武器、其他の器械、藥品等が主なものである。獨逸から日本に向けての輸出額は、年々増し行く有様である。

支那に於ても、獨逸の商業は、盛に發展しつゝある、就中香港、上海等に於て、獨逸人は商業の大權利を握つて居るのである。支那の海岸には、獨逸の蒸汽が交通して居る。香港、上海、北京等に於ける獨逸商會は、數年前の調査によると二百四十、全支那に於ける獨逸人の數は、約七千人だと云ふことである。

羅馬に於ても獨逸人の受けは宜いと言ふことで、交通機關などの制度は獨逸に則り、獨逸人が直接其事務に従事して居るものもありと言ふ。

外國に於ける獨逸人全體の數を合算して見ると、約四百萬人に上る。其中で合衆國に在るもの二百八十萬、英領北亞米利加に在るもの三萬人、南亞米利加に四萬六千、ブラジル及び濠洲に在るもの五萬人である。

若し外國に於ける獨逸人の家庭に生れたる子孫にして、現今獨逸人と稱せられず、然し其祖先の獨逸人たりしものを數ふれば、其數は千五百萬に上り、中九百萬は歐羅巴以外の外國に在ると云ふことである。其中でも七分半は北米合衆國に在るもの極めて多しと云ふことである。

以上の事實に照しても獨逸人の進取の氣象に富んで居ることが解る。彼等は商工を

以ても世界の覇を握らんとしつゝあるのである。獨逸商人氣質など研究に價することと思ふ。

獨露の關係

●獨と露の間には現今濃厚な雲霧が立ち込めて居て雨となるか風となるかそれとも晴天白日と變じ行くか只今の處では天氣豫報も一寸六ヶしい模様である。露國の新聞は盛に獨露の關係を説き兩國間の交誼を中絶せんと試みて居る。どうも其模様が普通で無いやうに見える。今日の處では露獨間に鎖せる雲霧は餘程濃厚なもので、曩日獨と佛とモメゴトが出来たのに比して尙一層劇しい傾きがあるやうに思へる。

●獨と佛の關係は、獨露の關係とは幾分其趣を異にして居る。即ち獨佛の關係は歴史に基く所多く、外面上假令交誼の間柄に在るにしても、何時衝突や行違ひが生ずるかも知れぬ故、一日も兩國間に氣をゆるしては居らぬ。従つて兩國共に行違ひの生ずる

を豫防せんと勉めて居るのである。人種問題、思想問題と言ふやうなものは、兩國人の關係を不良ならしむる要素とならぬけれども、獨露の間には有力な要素となつて雲霧の源を造つて居るのである。

●獨露の間に横はれる緊張の狀態を寛にせんため獨逸の政府は眞面目に意見を發表した。併し此意見は獨逸が世界の外交に關する自國勢力の告示に外ならなかつたのである。佛國の新聞は獨逸が露國に對して發表せし意見の連續を望んで居る。歐羅巴の大勢と云ふものを直接自國の敵と見做す佛人はどうかして自國の外交を圓滿に仕様と工夫して居るのである。

●獨逸側の意見發表の理由は斯うである。國と國との關係が緊張して居る場合に沈黙を守ると言ふことは危険である。又最も必要な國と國との商議を茫然たる世界の意見に従つて處置することも當を得たものでは無い。露國側でも定めて悟つたことであらう。即ち活ける文句を活ける眼で見れば、雙方間の誤解を解くことを得べく、且不愉快

快極まる突然の出来事を豫防し得ることを。と云ふのである。

●先程獨逸議會で外務大臣フォン・ヤゴウ氏が一場の演説をした、此演説は勿論外交上の問題であつた。其中露國に關する問題もあつた。獨逸の軍人がコンスタンチノールの第一師團司令長官になつたのが露國政府の癢に觸つた。露國の新聞は筆鋒を揃へて盛に此事を攻撃した。フォン・リマン氏は司令長官の職に在ること四週間に於て辭職を申出でた。そこで土耳其の政府と協議の結果、同氏は騎兵長官に轉じ、元帥の榮譽を得た。

●尤も露國の新聞が獨逸を惡しざまに攻撃するのはこの外にも種々の原因があつた。キョールン新聞に獨逸に關する論文が掲載された。政府の意見のやうに書いてあつたけれどもそれは相違であつた。處が此新聞の記事が端なく天下に廣く知れ涉つた。露國の外務大臣は此の記事を内閣會議の席上で話して、獨逸は協商問題に關し外交上露國に不安の念を懷かしむるものであると云つた。獨逸外務大臣の述べた處では獨逸と

露國との關係はそんなに張弓の姿ではない。此後も危險の事情が双方の間に起りはすまいと云ふのであるけれども、議會の席上に於ける報告演説であるから其内容も深入して居らぬことは當然である。

●近頃のことである。獨逸の飛行機乗が露國境内に飛行し、要塞地を測定したり。其他重要な場所を撮影したりした廉により六箇月間の禁錮に處せられた。飛行船は政府に、器物は警察に沒取された。三人の飛行機乗は各一人二千「ルーブル」の保證金を出すまで禁錮に處せられる筈となつた。右の露國政府の處置は大に獨逸國側の感情を害した。何は兎も角獨逸飛行協會は右の保證金總額六千「ルーブル」を露國に送つて三人の開放を要求した。これも昨年來の出来事である。獨逸の大學で露國學生を收容することに就て非常な問題が持上り、其結果露國の學生が獨逸の大學に入學することが六ヶ敷なつた。斯かることは直接外交に關係は少いとしても兩國間の交誼が諸種の方面に於て、冷淡となり、且面白からぬ現象が多く集まるとこれが自然物議の基となるも

●●●
のである。

●見給へ露國の軍備擴張、獨逸の軍備擴張互に優を争ひつゝある事を。何れの國に於ても軍備は大なる國家の負擔である。けれども此負擔を輕からしむる状態は、到底今日の歐羅巴では見られない、歐羅巴は軍備擴張の本場所の姿である。

●獨露の關係が果して好良となるか或は變惡するか、これは將來の見物である。

獨逸に於ける「アルコール」問題

「アルコール」問題は重要な社會問題の一つなり、獨逸國民が上下舉りて酒盃に親しみつつあることは事實なり。殊に大都會の慘狀を見れば、人をしてそゞろに寒膽せしむ。予は今レオンハルトの講演に基き獨逸大都會の酒害の真相を物語らんとす。

獨逸國に於ては「アルコール」飲料の爲めに年々三十億馬克を費され、此額は陸海軍の費用を凌ぐなり。「アルコール」飲料は、實に上中下の各階級を通じて、用ゐら

れつつあるなり。各大都市に於ける「アルコール」使用の様態を述ぶることは、困難にして、また其必要も少し、これ其關係は、殆んど何れも同じきによる。この故を以て、特に首都柏林、大港市ハムブルグ及び軍港キールの三都市につきて述べん。

●●●
柏林。千九百五年度の調査によれば、焼酎店は、人口、六百十人に對し一軒、料理店は人口四千二百三十四人に就き一軒、葡萄酒店は、人口六千七百八十九人に對し一軒の割合にして、珈琲店を合すれば、同年度の料理店總數は、一萬五千九百四十一個となり、即ち人口百二十八人に對し一軒の料理店を有することとなる。此中「アルコール」飲料を賣げる料理店の數は、一萬三千十八軒にして、人口百五十七人に就き、一軒宛とはなるなり。此數は實に、千八百八十五年以來六四・三%、千九百年以來七七・六%の割合にて増加したるものなり。

柏林市の家屋の敷地は、千九百五年度に於て、二萬四千四百九十三個あり。茲に一萬三千八百十八個の料理屋を含む。即ち柏林市に於ては少くとも第二軒目の家は料理

